

## I 研究組織

### (1) 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
江川 直樹	先端科学技術推進機構 理工学研究科	地域再生センター長 教授／建築家

### (2) プロジェクト参加研究者数 16 名

### (3) 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
江川 直樹	先端科学技術推進機構・地域再生センター長、理工学研究科・教授／建築家	団地再編におけるコミュニティスケールの再構成と空間・景観計画に関する研究	空間と再編事業デザインの構築
鳴海 邦碩	先端科学技術推進機構・地域再生センター 理工学研究科・客員教授	団地再編のビジネスモデルに関する研究	公共政策・マネジメントと再編事業デザインの構築
岡 絵理子	先端科学技術推進機構・地域再生センター 理工学研究科・准教授	団地再編におけるコミュニティ形成とライフスケープに関する研究	コミュニティと再編事業デザインの構築
橋寺 知子	先端科学技術推進機構・地域再生センター 理工学研究科・准教授	北欧・東欧の団地再編における建築その他の保存・継承に関する研究	空間と再編事業デザインの構築
(共同研究機関等) 高田 光雄	京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻 居住空間学・教授	団地再編におけるコミュニティスケールの再生と「シナリオアプローチ」に関する研究	コミュニティと再編事業デザインの構築
末包 伸吾	神戸大学大学院 工学研究科・教授／建築家	団地再編のための欧米における近代・現代建築の理論とデザインに関する研究	空間と再編事業デザインの構築
小玉 祐一郎	神戸芸術工科大学 環境・建築デザイン学科・教授	団地再編におけるパッシブ環境形成に関する研究	空間と再編事業デザインの構築
平山 洋介	神戸大学 発達科学部 人間環境学科・教授	団地再編における生活環境形成と公共の役割(社会政策)に関する研究	公共政策・マネジメントと再編事業デザインの構築
小浦 久子	神戸芸術工科大学大学院・芸術工学研究科・教授 (前 大阪大学大学院工学研究科 地球総合工学専攻・准教授)	団地再編における景観形成と公共の役割に関する研究	公共政策・マネジメントと再編事業デザインの構築
糟谷 佐紀	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科・准教授(前専任講師)	団地再編における福祉的リハビリテーションに関する研究	コミュニティと再編事業デザインの構築
室崎 千重	奈良女子大学生生活環境学部・講師(前兵庫県立福祉のまちづくり研究所・特別研究員)	団地再編における高齢者の居住継続を可能とするコミュニティスケールに関する研究	コミュニティと再編事業デザインの構築
林 泰義	都市計画家 ㈱計画技術研究所所長 特定非営利法人「玉川まちづくりハウス」運営委員	団地再編における地域によるコミュニティ形成に関する研究	コミュニティと再編事業デザインの構築
藤本 昌也	建築家 ㈱現代計画研究所会長 (前現代計画研究所代表・日本建築士会連合会会長)	団地再編における空間再生から生活再生への視点の転換に関する研究	コミュニティと再編事業デザインの構築
安原 秀	建築家 元㈱ヘキサ・都住創代表	団地再編におけるコーポラティブ型集住環境形成に関する研究	空間と再編事業デザインの構築
星田 逸郎	建築家 ㈱星田逸郎空間都市研究所代表	団地住民の意識の理解に根差す集住環境整備と事業の共生に関する研究	空間と再編事業デザインの構築

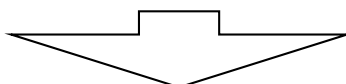
大坪 明	武庫川女子大学 生活環境学部・教授	団地再編における空間の再構成に とコミュニティ活性化に関する研究	空間とコミュニティの再編事 業デザインの構築
------	----------------------	-------------------------------------	---------------------------

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 23 年 4 月 1 日)



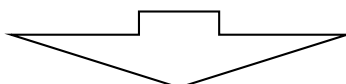
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	武庫川女子大学 生活環境学部・教授	大坪 明	空間とコミュニティの再編事業デ ザインの構築

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
団地再編における公的セク ターの役割に関する研究	㈱都市再生機構住まいサポート業務部・ ストック改善事業チーム	柏木 大輔	公共政策・マネジメントと再編事 業デザインの構築

(変更の時期:平成 24 年 4 月 1 日)



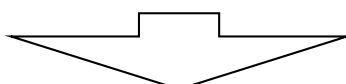
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
団地再編のための欧米にお ける近代・現代建築の理論 とデザインに関する研究	先端科学技術推進機構・地域再生センター 理工学研究科・教授/建築家	末包 伸吾	空間と再編事業デザインの構築

(変更の時期:平成 26 年 10 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
先端科学技術推進機構・地 域再生センター 理工学研究科・ 教授/建築家	神戸大学大学院 工学研究科・教授/建築家	末包 伸吾	空間と再編事業デザインの構築

## II 研究成果の概要

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

#### ・研究プロジェクトの目的・意義

わが国の人口拡大・都市化の時代に大量に建設された大規模公的賃貸集合住宅団地は、住宅の老朽化や設備の陳腐化などの物理的な問題のみならず、高齢化率の上昇やコミュニティの弱体化などの社会的問題を抱え疲弊化の様相を呈しているが、大量のストックがあり資金面の問題等から建て替えは困難で、その多くがストック活用による再生が目されている。本研究の目的は、事業主体が造りやすく一元管理しやすい画一的な空間構成となっているこのような大規模集合住宅団地を、住宅等のストックの活用を図りつつ、住民が守り育て自立的に更新していけるような持続性の高い集住環境に再編する技術を開発し実践に活かすことにある。団地建設の時代には産官学あげて技術開発に取り組んだが、ストック活用型の団地再生・再編は、住戸・住棟改善のレベルにとどまっており、「学」が先鞭を切って、団地全体及びそこに住む住民コミュニティの再生・再編技術の開発とそれを担う人材の育成に取り組むことは、極めて有意義である。

#### ・計画の概要

本研究は、集住環境を専門とする建築家、研究者が主体となり、「空間・デザイン」「コミュニティ」「公共政策・マネジメント」の3つの分野からの検討と、それらをいかに実践的に総合化させるかという視点から、関係各分野の専門家、行政や住民、市民と協働で取り組む。

計画は、団地再編に寄与する国内外の既存事例の整理を行いつつ、海外で進行する団地再編事例の調査、再生前後の空間その他の比較から、新たな集住環境としての再編目標を明確にし、以後、上記研究成果を基礎に、条件の異なる国内の複数の団地を対象に、それぞれストックを活かしつつ行う再編計画案を策定し、これを関係各者の参加を得て評価・検討を行い、団地再編の目標と解決のための手法、提案を「団地再編技術ガイドライン」としてとりまとめ、公表出版する。

本研究は、大規模団地の持つ空間的、制度的基本課題と現状の状況課題から、持続的な集住環境への再構築に向けて、どの主体がどのように連携し、どのようなプロセスで再編していくべきかを探り、方向性を示す研究である。団地構造の再編、仕組みや制度の再編、その結果としての屋内外空間再編、それらと連動した居住者や地域コミュニティの再生と、将来的にも持続的な集住環境への再編を実現することを目標とした、空間計画、制度再編やプロセス手法構築といった建築計画学の研究であり、本研究期間終了後も、研究の継続と成果を活かした実践活動を展開する。

### (2) 研究組織

#### ・研究プロジェクト遂行のための責任体制の明確化

本研究は、集住環境に経験や造詣の深い実務建築家、都市計画家、実践協働経験のある研究者16名(本学4名)による構成が特色で、その他、実務建築家や事業主体経験者、行政専門家で構成される客員研究員(10名)、その他PD等若手研究者や大勢の大学院生準研究員が協働で取り組むプロジェクトである。【別紙資料1参照】。研究代表者は、公的賃貸集合住宅団地や集住環境の再生プロジェクトに成果があり、大規模団地の課題に詳しいプロフェッサー・アーキテクトである。

研究は、関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター内のKSDP 団地再編プロジェクトを研究拠点として、空間、コミュニティ、制度・マネジメントの3つの研究部会の主査を本学メンバー(空間は研究代表者)が務め、代表者がアーキテクトの特質を活かし総合化、総括する。調査分析、提案、フィールドでの実践、検証、その他成果の公表等、3人の主査が協働し、代表者の責任で遂行する。拠点の運営は、研究代表者が特任研究員、PD、RA、大学院生準研究員等を主導し、協働で行う。

#### ・研究者間・研究チーム間の調整・連携の状況

本研究は、具体的フィールドでの提案や検証等、多くのメンバーが協働で活動する。研究組織は、3つの領域に分かれた研究部会を構成し、研究メンバーが継続実施している個別の研究成果や知見を、具体的フィールドでの再編提案、実践プロジェクト等の様々な局面で反映させ、検証等を経て総合化する。学外のメンバーも多く、そのため、調整・連携についてはこれを密にする必要があり、毎週、研究拠点で研究代表者が主宰する“KSDP 団地再編連絡会議”を開催(平成28年3月末まで221回開催)し、議事録は、メーリングリストでメンバーや関係者に即時伝達している。また、事例研究や成果・提案公表、研究会、シンポジウム等は、団地再編レクチュアシリーズ(映像)としてUstreamで同時配信、プロジェクトのWebサイト上で常時視聴可能としている。Webサイト上では、研究成果の取り出しが行えるほか、メンバー限定エリアでは、資料や検討中の案の確認、取り出しや意見交換を行えるようにして、Webサイトの活用を図った。再編提案や後の具体的整備設計に際しては、専門家と大学院学生を交えた提案部会を頻繁に開催し、事業者とも協働した。

### ・研究支援体制

本研究プロジェクトは、研究費の事務的処理や納品管理、フィールド研究・実践のための学内起案、学内評価、研究に関連する受託研究その他について、関西大学先端科学技術推進機構、および研究推進部、社会連携部の全面的な支援を得て実施された。

その他、UR都市機構や関係行政からの積極的、かつ多大な支援・協力を得た。京都府、西宮市、大阪府、河内長野市、市関連企業、吹田市、近畿圏の住宅供給公社、住まい公社、兵庫県、再編提案策定該当団地・地域の住民、自治会等の住民組織、大阪ガス等の公益企業等、多くの支援協力を得て、本研究プロジェクトが実施された。

### ・大学院学生・PD、RAの活用状況等

特任研究員・PD・RA(計4名)、大学院生準研究員(延べ48名)【別紙資料1参照】が、研究メンバー、実務家客員研究員の指導の下、協働し、調査やワークショップ等の現場フィールド、提案策定、展覧会運営、住民コミュニティ拠点運営、実践提案及び実施設計、施設整備等の研究プロジェクトに参加し、また、国際シンポジウムや関係諸学会への論文投稿、修士論文研究等を実施した。

平成26年には、3年間の経験を経たPDが、愛媛大学のアーバンデザインセンターに専任の教育職員として採用され、本研究プロジェクトでの経験を活かした活動を展開している。

### ・研究施設の整備状況

KSDP 団地再編プロジェクト室として、先端科学技術推進機構 学術フロンティア・コアのF41室(39.00㎡)、F42室(78.00㎡)を使用。F41室は模型製作、図面作成室として主に使用し、F42室は、特任研究員、PD、RAが常駐している。PD等調整会議、KSDP 団地再編連絡会議は、毎週ここで開催し、レクチュアや部会議等は、先端科学技術推進機構の会議室(4室)を頻繁に使用している。

また、UR 男山団地内のC2-402室(46.08㎡)を居住実験及び現地研究拠点として平成24年7月より25年10月迄使用、11月からは住民も集える研究拠点(だんだんテラス)施設として男山センター内のB47-104室を使用している。本拠点は、研究期間終了後も継続して使用する予定である。

さらに平成27年3月から平成28年2月まで、UR南花台団地(河内長野市)の18号棟-803室(56.00㎡)を居住実験及び現地研究拠点として使用し、団地再生モデル事業の検討研究活動を展開した。

## (3)研究施設・設備等

### ・プロジェクトに適合した装置設備の整備

研究設備として、団地再編シミュレーション・システム(模型製作および映像による空間比較を行う)の導入を図り、併せて、変更前後の空間変化が理解しやすい画像比較ソフトの開発を実施し、提案とその公表、検証に用いた。

### ・研究装置、設備の利用状況(利用時間数を含む)

シミュレーション・システムは、提案検討及び公表のための模型作成、及び模型による空間の検証、住民への説明などに繰り返し使用し、システムが整備された初年度12月以降平成28年3月末までの52か月間(その間、プロジェクト室は1009日稼働)で、154日927時間稼働した。

### ・外部の研究資金の導入状況等

研究メンバーの、本研究に関連する内容の科学研究費補助金、その他の研究補助金、受託研究のH23~27年度の実施の件数は、18件111,349千円である。そのうち特に、具体の再編提案から展開し本研究プロジェクトとして受けた受託研究が、9件41,669千円である【別紙資料2参照】。

## (4)研究成果の概要 ※下記、IIIに対応する成果には下線及び\*を付している。

### 1. シミュレーション研究から実践的研究活動への展開

構想調書での計画では、具体の団地を対象に再編提案を策定し、住民や地域、事業主体との検証を繰り返すなかで団地再編手法の技術開発研究を図ろうというシミュレーション研究であった。しかし、最初に提案の対象団地として取り上げた、[case01]男山団地(京都府八幡市)での研究・提案活動が、多くの関心、期待を集め、実践的研究活動に発展・展開していった。そのため、行政(八幡市、京都府)、事業主体(UR都市再生機構)との強固な連携体制、住民や地域との協働の可能性が大きく芽生え、この視点から、より実践的な具現化プロジェクトの実施、構想が可能となり、実践的、経験的研究活動を通しての検証や提案体制での研究活動を進めることとなった。

行政、事業主、本プロジェクト(大学)が連携協定を締結し、実践的研究活動へと展開できることとなったのである。協定には、『・・・八幡市及び男山団地の所有・管理者である独立行政法人都市再生機構は、関西大学による「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究」における男山地域・男山団地の再生に関する提案を踏まえて、関西大学とともに、男山地域のまちづくりに取り組んでいきます。・・・』と謳われている。【別紙資料3参照】

以後、本プロジェクトの提案に基づく様々な取り組みが展開されているが、団地と対峙する中で浮かび上がってきた重要な課題は、将来への持続的な団地環境への再編を目指しつつ、現住民の意欲的な暮らしに寄与するコミュニティや団地環境の再編整備、それらを進める仕組み、制度等の再編整備を同時に進めることの必要性であった。さらに、そのために事業主側の制度や規約の再編を図るには、具体的な実践を通して協議・検討しなければ実現できないということもわかってきた。このように、シミュレーション研究から実践を伴う研究活動への発展的展開そのものが、プロジェクトの大きな成果であり、そこに至るプロセス、その後の具体的実践、それらの成果の公表が、本プロジェクトの大きな成果となった。

学（本研究プロジェクト）が行政、事業主、住民との間に立ち、専門的立場に基づく団地再編実践の方向性と機会を提案し、段階を追って実践していく中で、課題解決への機運が高まり、市民協働、住民協働への意識改革とそれに基づく活動、事業に結びつく事例を展開してみせたことは、外部評価委員の指摘（評価）にもあるように、関係する各主体から大きく評価されているところである。

この間、男山団地では子育て環境や住み続けられる環境への団地再編の取り組みが現実化するなかで、新たな入居が促進され、空き住戸が減少しており、結果として、具体的な実践プロセス、成果そのものが、いわば、団地再編技術ガイドラインとして提示できることとなった。

また、[case03]南花台団地（河内長野市）でも、団地再編コンペの実施とプロジェクト提案がきっかけとなって、平成26年度から団地を中心とする地域で、実践的研究活動を開始している。

## 2. 研究活動・進捗プロセスの概要（p.6 図1 参照）【詳細は別紙資料4 参照】

### ○平成23年度（研究初年度）

研究初年度は、既存研究や関連分野の先進事例の調査分析、「団地再編レクチュアシリーズ」の開催、大学院学生と研究員、研究メンバーによる海外先進事例調査、先進事例の再編前後の空間比較モデル（模型）の作成、それらの成果を団地住民や関係者（事業者、行政）、学生、研究者を対象としてわかりやすく編集した「団地再編リーフレット」の発行、「団地再編叢書」の刊行、加えて、次年度の再編提案対象団地の選定を行った。レクチュアシリーズは以後も継続して実施、リーフレット、叢書の発行も、最終年度まで継続した。研究は当初計画以上に進められた。

### ○平成24年度（研究2年度）

研究2年度目は、当初計画に沿って、[case01]として選定した男山団地を対象に、各種調査と併行し再編提案を策定、海外事例等の研究成果と併せ、現地住民だけでなく広く一般公開展示し、課題の社会共有化と検証を目指した。提案は団地再生に取り組む関係者からの大きな関心を得た。提案の検証作業を通して、将来への持続的な団地環境への再編と、現住民の不満の解消、そのための環境再整備、それらを進める仕組み、制度等の再編整備を同時に進めることの必要性が確認できた。研究活動は、八幡市、京都府と課題の模索、認識の共有化を図りつつ進めた。大学院生による Petit DIY 改修実験は、住民自らが参加する家づくりとして、その後の団地環境再編への方向性の共有に大きな影響を与えた。再編提案[case02]浜甲子園団地4期エリア（西宮市）は、建て替えによる団地再編が進む団地の計画未定エリアを対象に、ストック活用型の提案を策定公表した。研究は当初計画を超えた実践を含んで進められ、研究2年度までの外部評価を実施し意見の聴取を図った。

### ○平成25年度（研究3年度）

研究3年度目は、男山団地での再編提案に対して事業者からの一定の評価と期待感を得て、新たにUR都市機構（ストック再生チーム）とも協働しつつ研究活動が展開できることとなった。秋には、八幡市、関西大学、UR都市機構間で連携協定を締結（京都府立会い）し、365日オープンに住民コミュニティ拠点「だんだんテラス」を団地内に開設した。さらに、団地を中心とした地域再生を図る「男山地域再生基本計画」を八幡市と協働で策定し、翌年から実施している。また、空き家の多い郊外型の典型団地として、[case03]南花台団地（河内長野市）を取り上げ、仮想の対象地とした団地再編コンペを全国規模で実施し、多くの参加を得て、団地再編への課題の認識と研究活動・方向性の社会共有化を目指した。[case04]桃山台（吹田市）は、形成されてきた公営住宅団地の屋外環境をストックとして生かす建て替えの提案で、行政計画のカウンタープランとして提案策定し、公表した。研究は当初計画を超える実践的な進展を見せ、2回目の外部評価を実施した。

### ○平成26年度（研究4年度）

研究4年度目は、男山団地で、だんだんテラスの運営を進めつつ、UR都市機構と協働して、現代的ニーズへの住戸改修の実施と公募、子育て支援施設の開設等（ダンチ de コソダテ in 男山団地）を実践し、一定の成果を得て、次年度以降に更なる試みが可能となった。それらの実践のための調査や検証は大学院生の修士論文となり、新たな試みを進めるための根拠となった。団地再編、地域再生を大学と協働する効果と意味、可能性といった点でも関係者間で多くのことが共有でき、年度

末開催のシンポジウムでは、八幡市長より連携成果についての報告を得た。プロジェクトの研究成果を基に、団地再編専門家養成セミナーを、近畿圏の行政、研究者等の参加を得て開催し、従前にはなかったテキストの発行（団地再編叢書 vol. 11）に繋げた。セミナー開催に併せて、団地再編パネルディスカッション「近代の集合住宅団地は何を目指したか？」を開催し、団地活性化・再生マネジメントに関する考察を深めた。[case03]南花台でも、「スマートエイジング・シティ団地再生モ

KSDP団地再編プロジェクト 当初計画		KSDP団地再編プロジェクト 実施活動		
空間・マネージメント・コミュニティ (建築家・研究者・PD・RA + 事業者・行政・住民)		空間・マネージメント・コミュニティ (建築家・研究者・PD・RA・学生(院生)・行政・事業者・住民)		
H23年	既存研究、海外等の事例調査・空間モデル作成	既存研究、海外等の事例調査・空間モデル作成		
	検討対象団地の選定	Webサイトの作成・団地再編レクチャア・団地再編リーフレット・団地再編叢書 検討対象団地の選定(調査・評価)		
H24年	再編指針案-1の作成 ① 団地 調査 再編提案 検証 修正 ② 団地 調査 再編提案 検証 修正	再編ガイドライン案-1の作成 KSDPシンポジウム-01 ① 男山 居住実験 環境調査 (八幡市・京都府と協働) [生活実態調査] 車・カーシェアリング調査 団地再編提案作成 展示会・講演会他で公表 検証(だんだんWS・カフェ) Petit DIY 改修実験 [男山地域再生基本計画草案] KSDPシンポジウム-02 <外部評価>	② 浜甲子園4期	
H25年	再編指針案-2の作成 ③ 団地 調査 再編提案 検証 修正 ④ 団地 調査 再編提案 検証 修正	男山団地再編提言 ↓ 再編ガイドライン案-2の作成 大阪府下駐車場附置義務調査 まちを元気にする人・仕組み調査 3公住宅事業者勉強会 関西NT現状と課題 研究発表会 <UR 建基法86条研究会> KSDPシンポジウム-03・PD <外部評価>	③ 南花台 調査 (河内長野市と協働) 団地再編提案Competition 一次審査	
H26年	① 団地 修正提案 検証 ② 団地 修正提案 検証 ③ 団地 修正提案 検証 ④ 団地 修正提案 検証 再編指針案-3の作成	専門家養成セミナー開催 団地原論 団地再編 (再編ガイドライン案検討) パネルディスカッション 団地再編コンペ シンポジウム [公共住宅セミナー] 研究発表会 東京 KSDPシンポジウム-04 <外部評価>	④ 桃山台 公開審査 プロジェ外再編提案公表 作品集刊行 [SAC団地再生モデル事業検討] (SAC=スマートエイジング・シティ) (大阪府他多くの関係機関と協働) 南花台住民ワークショップ開始 .....	
H27年	開かれた団地再編デザイン 段階的に取り組む適正規模 導入される機能と配置 既存ストックの環境評価 公的支援の方向性 制度改革の方向性 プロセスプランニング コラボレーション・システム 団地再編技術ガイドラインの作成・出版 シンポジウム	<外部評価 最終年度> 住み続け、住み続け環境に再編 ミックスコミュニティに再編 居住者による改修支援 コミュニティ拠点の整備・運営 地域コーディネーター 公的支援 制度改革 プロセスプランニング コラボレーション・システム 団地再編技術ガイドラインの作成・出版 KSDPシンポジウム-05	ダンチdeコソダテin男山団地検証 ダンチdeコソダテin男山団地-02 多世帯向け住戸改修 居住者によるセルフ/ヘルプ・アクション実験 外部色彩等環境改善整備実施 歩道橋住民参加型改修整備実施 1階住戸用途改変検討 緑道マルシェ パレットキオスク仮設実験 高年齢向け複合施設開設	[SAC南花台わくわくプロジェクト] 健康まちづくりProj. 生きがい就業検討Proj. 子育て子育て環境Proj. まちの情報発信Proj. みんなの拠点づくりProj. ストック活用Proj. .... <連携協定締結予定>
H28年	拠点形成 成果の社会化 実践 人材育成	拠点形成 成果の社会化 実践 人材育成	コミュニティ拠点運営主体変更 研究実践活動継続 ..... ..... ..... ..... ..... ..... .....	<事業継続> ..... ..... ..... ..... ..... ..... .....

図1. 研究活動・プロセスの概要(シミュレーション研究から実践的研究活動への展開)

デル事業総合検討」として、団地を中心とする地域の再生を狙った実践的研究活動を開始した。研究はさらなる進展を見せ、本年度までの外部評価を実施して、最終年度のとりまとめに備えた。

### ○平成 27 年度（最終年度）

成果報告書（団地再編技術指針）の取りまとめと併行し、八幡市男山団地と河内長野市南花台地域において、団地再編、地域再生への実践的研究活動、実践の取り組みを継続展開している。男山団地では、連携協定締結時（平成 25 年末）に基本構想を策定した「地域包括ケア（高齢者関連）複合施設」が 11 月にオープンし運営を始めた。また、現代的ニーズへの住戸改修プログラムの継続実施、在居住者（居付き住民）による原状回復義務の不要なセルフリノベーションシステムのモデル実験が実施され、制度の再編を検討した。住戸内外の鉄部のサビや塗装のはがれの解消に向け、住民参加型の環境再整備の実施に取りかかり、これらによって（一部ではあるが）外部環境の面からも、進行している団地再編が目に見えるカタチとなって具現化した。南花台地区では、前年度の検討を受け、事業実施に向けた取組み「スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業総合研究」を開始、住民コミュニティ拠点の整備を始め多くの取り組みを、本プロジェクトが総合コーディネーター役となり、関係者協働で同時多発的に開始した。研究は当初計画を超える実践的な展開を見せ、これまでの研究活動を総括した外部評価を 7 月に実施し、併せて、男山団地での研究活動に関する現時点での行政及び事業主からの評価をまとめた。

## 3. 研究成果の主な概要（自己評価）

### （1）研究成果と活動内容・プロセスの広範な一般社会への公表

ストックを生かした団地再編（再生・更新）は、団地だけでなく、まちづくり上の大きな課題であり、研究成果や活動の内容、そのプロセスは、研究者や専門家は言うに及ばず、広く住民や市民、行政職員、議員、次代を担う学生に、わかりやすい方法で公表し、社会ストック化を図ることに大きな意味がある。学術的論文という成果公表形式にとらわれず、広く大勢の団地住民や市民、関係する人たちが気軽に読めるような公表形式の開発と実施が、本研究課題の性質上ふさわしい。そのために、若手研究者や学生がその作業に取り組むことも、教育や人材育成上からも意味がある。そこで、研究活動内容の詳細、事例研究、提案の公表、研究発表会、シンポジウム、パネルディスカッション等を収録した「団地再編レクチュアシリーズ（映像版）<sup>\*1</sup>」（3 月末時点で 135 編）、レクチュアやその他の研究成果、提案、提言などを一般の人々にもわかりやすく解説した「団地再編リーフレット（Re-DANCHI leaflet）<sup>\*2</sup>」（3 月末時点で 192 編）を作成、関係者間で共有するとともに、本プロジェクトの web サイト（<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/>）上で公開、ダウンロードを可能にした。また、リーフレットでまとめることが困難なボリュームのものについては、「団地再編叢書<sup>\*3</sup>」として刊行した。以上は、本研究期間終了後も関西大学地域再生センター団地再編研究スタジオ（仮称）の web サイト上でいつでも視聴、ダウンロードできる。これらの公表成果は、今後、多くの団地でストックを活かした団地再編が進められると予想される中、わかりやすい参考解説書となっている。また、本プロジェクトの研究活動の総体を収めた報告書、「ストック活用型団地再編への展望【前編】【後編】」は、構想調書で考えていた団地再編技術指針でもあり、平成 28 年 1 月の最終シンポジウム開催にあわせて出版した。具体の研究内容成果と併せ、これらの公表成果は、外部評価委員の高い評価にもあるように、本プロジェクトの大きな成果の一つとして重要である。

### （2）海外団地再編事例の調査分析<sup>\*4</sup>

初年度に英、仏、独、蘭、北欧といった欧州に加え、アジア、日本を含む 53 の団地再編事例の収集と分析（現地調査による検証）を行い、人口密度の少ない北欧を除く殆どのケースで、レジデンシャル・イン・パーク型（公園の中に住棟が配置される形状）だった団地構成が、コミュニティの領域性が認識しやすく、道路空間、いわゆる“まち”の空間の安全性や境界性を創出する沿道型（街区型）構成に再編されていること、ミックスコミュニティの実現と多様性の表現をデザインの目標にしていること、住民が自ら参加して身近な生活空間を維持管理するデザインを実現していること、ストックを活用し新築部分と混在させて上記のデザインを実現していること等を明らかにした。また、当初からこのような形式でできている事例では現在まで持続的な環境が保たれていること、アジアの自主更新事例でも多様性や沿道性の表出が顕著で、住民の意欲的な発意がそこにあること等を明らかにした。（次年度に 15 事例を追加調査）再編事例の多くは、団地の持つ均質性と大規模性の解消を目標に、小さなスケールの多様な建築を沿道に配置させるという手法で再編しており、それらを空間模型の比較で明らかに示した。

また、平成 26 年度に追加調査を行った、ストックホルムのラビ団地は、日本に多い並行配置で構成される団地で、[case-01]男山団地再編提案や[case-02]浜甲子園 4 期エリアの再編提案で提示している、木造等の簡素な小建築による増築と最小限の住棟改修によって、親しみあるスケール感と

安心安全な街路空間、屋外空間に再編し、効果を上げていることを確認し、その手法と効果をレクチュア、リーフレットで報告した。さらに、[case-03]南花台で提案している、屋外空間の専用庭化による豊かな郊外居住環境への再編提案も、ドイツの複数団地で、生活感あふれ愛着の持てる持続的な環境形成として成功している状況を確認し、同様に報告した。

団地再編の目標となる空間イメージを整理し、その成果を基に具体の団地で再編提案を行った研究事例はなく、実践した事例もなく、一連の研究成果、プロセスは、今後の我が国の団地再編を進めるうえで貴重な先進事例であり、社会貢献度の高い大きな成果である。

### (3) 男山団地再編の実践的研究

#### ① 男山団地再編提案

男山団地を再編提案対象団地として選定後、学生による継続的な居住実験、各種の調査、居住意識の聴取<sup>\*5</sup>等と並行して、男山団地の再編提案<sup>\*6</sup>を作成、広く一般公開し、後、団地や地域住民、行政等関係者を対象にワークショップ等を数多く開催<sup>\*7</sup>して提案の趣旨を説明し、意見を聴取した。

提案は、団地を効率的に建設するためにつくられた「(建築基準法 86 条の規定による)一団地建築物設計制度」(一団の建築群をひとつの敷地の一つの建物と見なす制度)が個別の更新を難しくさせている現状を、ストックを活用した持続的環境への再編上の重要な課題と捉え、一団地の解体・再編を基軸とし、小さなコミュニティをつくりつつ居住者参加のまちづくりをすすめること、広大な駐車場として周辺との連続性を断ち切っているフリンジ(境界部)の土地利用を見直し再編資金の確保とまちなみ景観の創出を図ろうという提案である。この提案は、団地再編を考える上で重要な 86 条一団地の問題を団地住民、市民、一般行政職員等に周知させることとなり、また、駐車場再編の方向性<sup>\*8</sup>やコミュニティの領域性の重要性を再考させるきっかけとなった。

今まで均質で周辺から隔絶されていた団地の中に、多用途や戸建て住宅等の異種居住形式を持ち込む提案は、公表時点では、住民にもなかなか理解しにくい部分があったようだが、じっくり時間をかけて理解し、検討していきたいというのが住民の意見であり、むしろ、住民が今困っていることの解決を図りつつ、長期的な団地再編を考えていって欲しいというのが住民の声であった。

住民の不満は、(目的のはっきりした活動に使うようになっている集会所や公民館ではなく)気軽に行くことのできる場所が団地にはないということ、住戸内の設備や内装が老朽化していること(直してもらえない、または原状回復義務の制約で直せない)で、それが後の「だんだんテラス」の開設、「在居住者(居付き住民)による原状回復義務の不要なセルフリノベーションシステムの開発」へと展開した。提案は、団地再編における重要な要件を提示しており、学会誌や一般紙にも取り上げられて団地再生に取り組む関係者からの大きな関心を得、提案の内容自体が大きな成果となった。

#### ② 86 条一団地検討会

一団地の制度で作られた団地は、多様な手法を混在させる住棟改修や住棟再編を難しくさせている。エレベーター設置棟への部分的改修や、多様な用途の導入に際しても、同様である。さらに男山の場合、500 戸程の大規模な団地型(分棟型)分譲住宅が 3 か所、賃分一体で一団地指定されており、分譲団地の再生に際しても一団地の解体、再編は避けて通れない課題である。UR 都市機構は、本プロジェクトの再編提案をきっかけに、「団地再生における建基法 86 条の取り扱いに関する検討会(平成 25 年度)」を開催することとし、本プロジェクトから 2 名が参加し、知見と研究成果を提供し、様々なケースのシミュレーション検討を行った。具体的場所での検討で、公表はされていないが、団地再編専門家養成セミナー テキスト団地再編<sup>\*7</sup>で検討内容の概要を紹介している。その後、平成 26 年度には、国土交通省が、「住宅団地の再生のあり方に関する検討会」を開催することとなり、本検討会から 3 名が委員として出席し、86 条一団地の課題を含め、国に意見を提供した。

平成 25 年度に八幡市と協働で策定した「男山地域再生基本計画」(受託研究)でも、この団地型分譲団地の再生が地域まちづくり上の重要な課題であるとしており、平成 26 年度に、課題解決に向けた支援方策を探る「(団地型)分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討<sup>\*9</sup>委託(八幡市と協働)」(受託研究)を実施した。郊外の大規模団地型分譲住宅の再生は、容積を増やし余剰床の売却に頼る一括建て替え手法では成立しにくく、複数ケースの検討、および様々な手法を混在した提案を作成、実現のための方策を検討した。さらに京都府の支援も得て、賃分が一体となったエリアの一団地の解消、生じる既存不適格の解決手法を検討、その実現方策、手順を明らかにした。さらに、再生検討の進め方として、一団地の解消(全員同意)から始める手法と、地域を含む協議検討の中で進めるという手法を提示し、そこに市の支援を提案した。賃貸部分の一団地の解消に際しても分譲部分の全員同意が必要なことを考えれば、当該住民内部だけでなく、地域、行政、UR 都市機構と協働で再生の課題に取り組む効果について双方が理解する必要があることを明らかにした(平成 27 年 11 月に住民説明会を開催予定)。併せて、本プロジェクトで実施した大阪府下全域にわたる駐車場附置義務調査の結果を参考に、将来を見据えた、現行条例の変更への考え方を提案提示した。



分譲住宅団地の再生は民間の問題とされ、公的な視点からの支援が難しい。賃分一体の一団地を社会的課題として捉え、地域まちづくりの視点からその再生の在り方を検討し、公的な支援の有りを提案した事例はなく、本研究プロジェクトから派生した貴重な成果である。

### ③ 団地再編を進める検討協議プロセス

男山では、調査・提案策定に際し、八幡市のまちづくり推進部都市計画課と密接な小勉強会を毎月2回開催し、行政組織や地域の現状把握と課題の共有化を図った。勉強会には、市町村の課題解決を支援する京都府（自治振興課）「まちの仕事人」の参加を得て、府との連携協働に繋がった。

勉強会を進める中で問題になったのが、事業者の不在であった。行政や地域住民的には、UR賃貸団地は他人の敷地であり、地域に占める大きさに比して、協働的課題検討を進めることができないというのが課題であった。そこで、八幡市と大学が本研究プロジェクトを題材として連携協定を結び、その後、事業者に参加を依頼するというシナリオを作った。その後、再編提案の公開展示などによって、事業者からも一定の理解と期待が得られたことから、研究3年目からは、この勉強会に事業者も参加することとなり、結果、年度内の市・大学・事業者間の連携協定<sup>\*10</sup>の締結（京都府立ち会い）【別紙資料3参照】が実現した。その後は実質、京都府も含めての四者連携協議会として開催し、協働体制の推進、UR都市機構や八幡市との数々の協働実践研究活動の実施に展開した。

さらに、協定を機に、府市連携の男山健康福祉地域再生プロジェクトが立ち上がり、地域包括ケア複合施設の整備構想（受託研究）を進めることとなった。再編提案で示したように、団地内の駐車場用地に建設する計画として、翌平成26年11月に着工、平成27年10月に竣工した。同様に、男山地域安心・安全によるコミュニティ創造プロジェクトも立ち上がり、八幡市社会福祉協議会を実施団体として、団地から地域を含む絆ネット構築支援事業が実施されることとなった。

連携協定では、(1)次世代を育むまちづくり (2)多世代が根を張るまちづくり（地域包括ケア）(3)地域に活力を呼び戻すまちづくり (4)住民が主役となるまちづくりを、連携して取り組む事項としており、協定締結後2年を経た段階で、各々具体的な成果が顕現していることは特筆に値する。

大学（本プロジェクト）が第3者的立場で実質的に参加するラウンドテーブルが、行政と事業者をつなげる形となり、協働して団地再編を考えていくきっかけになって、様々な実践が実現し、行政内、事業者内に積極的に団地再編を考える機運を生み出し、その後、団地再編のプロセスとして、この連携と連携に基づく様々な実践が大きな評価を得ることとなった。特に、建築や都市を扱う専門的領域の大学、大学院生の参加が、高い評価を得ることになった。

男山での取り組みとその成果は、事業者UR都市機構内でも一定の評価を得ることとなり、良好なコミュニティの回復を狙いつつ進めなければならないストック活用型の大規模な団地再編に際して、大学と協働で取り組もうとする事例が生じてきており、見学やヒアリングも多い。また、団地再編に取り組む中で、行政内の横断的取り組みが潤滑に進むようになってきており、行政内の意識改革や意欲的な業務遂行につながっていることも評価されている。

平成27年10月開催の第2回連携協定年次報告会は、一般市民にも公開され、継続への期待も大きく、外部評価委員からも、4者連携の取り組みの実現が最大の成果であると評価されている。

### ④ 「だんだんテラス」

365日オープン性を表明して開設した、住民が気楽にいくことのできるコミュニティ拠点「だんだんテラス」<sup>\*11</sup>は、大学院学生による交代常駐によって、一日も休むことなく運営してきた。

平成25年度関西大学修士論文「団地再編におけるコミュニティ拠点 開設の経緯と利用実態（辻村修太郎）」は、同様の趣旨で設けられた他拠点との違いを、365日の運営と空間的に街に開くというオープンさを重視している点をあげ、既存の集会施設のように管理された空間は、その場所で展開される活動の連鎖を断ち切っているとして、住民がコミュニティ拠点に求めているものは日常的に利用できる気軽さであるとしている。さらに、「だんだんテラス」は、(1)コミュニティ拠点 (2)情報収集 (3)情報発信 (4)課題解決 の4つの役割を果たしているとして、団地や地域の情報を交換できる場の必要性和効果を指摘している。論文の著者は、テラスの開設から運営に携わり、大学院修了後も、「男山地域再生基本計画」で提示された地域コーディネーターとして継続して活動し、同年秋に京都府が新たな人材配置の仕組みとして開設した、地域在住の半官半民の京都府職員「公共員」に採用され、現在も、だんだんテラスを拠点に活動を継続している。

平成26年度関西大学修士論文「団地再編におけるコミュニティ拠点 1年目の利用実態と存在意義に関する実践的研究（松浦知子）」は、365日運営のメンバーとして、「だんだんテラス」の実態を詳細に調査報告し、オープンな空間の効果を高く評価し、ともすれば閉鎖的になる現在の団地環境において、多様性を許容することで、新しい出会いを促進させ、元気や意欲を生み出し、自分たちで何かしていこうという、“ゆるやかな連鎖”を生み出しているとその効果を締めくくっている。

平成26年春には、住民を交えた任意の運営団体「だんだんテラスの会」を設立し、補助金の獲得等、自主的な運営に向けての活動を開始した。会での議論を通して、団地に不足する若い世代の存在意味が大きいことを確認し、研究プロジェクト終了後も継続して大学、学生との連携を視野に入れていくことの必要性が住民との間で確認された。

地域野菜の朝市や毎朝のラジオ体操も、高齢者の外出の理由や新たな交際のきっかけになっており、飲料共に持ち込み方式に変更した「だんだんバー」も、人のために料理をつくる楽しみを生み

出し、多世代間の親密な交流の場、きっかけとなっていることが確認できている。

だんだんテラスの会設立後の5月から、毎月「だんだん通信」を発行、団地の全戸6,000部に配布、住民も作成に協働している。配布は学生が手配りし、団地内に若者のいる風景を創出した。発刊1年後の平成27年6月からは、地域の要望に応じて男山地域の全11,000戸に配布している。

開設から1年後の年末に行われた「灯りの祭典」では、大勢の住民が「だんだんテラス」のある中央商店街に集まり、久しくなかった光景が展開され、今後につながる期待感を抱かせた。加えて、地域内にも自由に集える場が必要であると、団地の内外の住民で地域を考える「男山やってみよう会議」が設置され、公募で集まったメンバーが、先の「公共員」と協働し、活動を開始している。

だんだんテラスは、団地再編の第一歩として、「自由に集える場所づくりから」を実践し、団地住民や関係者の協働の象徴となっており、その空間の有り様と併せて大きな成果を示している。

#### ⑤ 「ダンチ de コソダテ in 男山団地」

持続的な環境形成には、多世代のバランス良い居住が重要で、団地内に居住中の高齢者の環境再整備と同時に、子育て世代や若年世代といった世帯向けの団地再編が重要な課題である。そういった視点から、団地の豊かな自然環境を活かした「ダンチ de コソダテ in 男山団地」実践プロジェクト<sup>\*12</sup>に取り組んだ。現在の子育て環境はストレスが多いという報告から、設備環境に頼らない、開放的で気持ちの良い住居空間を実現することを目標に定め、改修後の住戸を公開、入居者を公募し、現在新たな住民が居住している。階段室の5階住戸にも多くの応募があったように、従前の住戸プランが、場所特性とライフスタイルを考慮したプランに改修整備されることで、新たなニーズに応えることが検証でき、階段室型の上層階の活用にも期待感を抱かせる結果となった。平成27年度には追跡調査を実施し、検証作業を進めつつ、新たなニーズを開拓する新規企画の開発と、発生した空き家を現代の暮らしにあった住戸に低コストで改修する手法の検討も行っており、具体的な実践成果として大きく評価されている。

#### ⑥ 在居住者（居付き住戸）DIY住戸改修システム検討

居住中の住戸、居付き住戸の原状回復義務の不要な（住民の自費による）セルフリノベーションシステムの構築は、住み続けることのできる良好な住環境の再構築、団地再編に向けては不可欠の、重要な課題である。現在、UR都市機構、本プロジェクト、だんだんテラス、学生、住民、京都府建築士会の建築士が協働で取り組みを開始しており、平成27年度にはモデル実験が実施され、各者をつなげるシステムの構築ができつつある。ここでも提案や実践における第三者専門家としての大学（専門家を含むプロジェクトチーム）の役割が大きい。

#### ⑦ 男山地域再生基本計画<sup>\*13</sup>の策定

団地の再編は、周辺を含んだ地域の再生と一体的に考えなければならない。意を同じくする八幡市から、「男山地域再生基本計画策定（支援）」業務が受託研究として発注された。本策定事業は、ふるさと財団（一般財団法人地域総合整備財団）のまちなか再生支援事業（大学連携型）に採択され、結果報告会では、プロデューサーとしての大学、専門家の役割が評価された。

地域再生基本計画で提案したプロセスプランニングは実践活動に根差したもので、団地再編のプロセス検討そのものでもある。2014年の4月に公表され、本プロジェクトと一体となって実践に移されている。基本計画で謳われた、「地域コーディネーターの配置」は、本研究プロジェクトで実験的に開始し、補正予算で市の事業となり、同年秋には京都府が日本で初めて設置した半官半民の府職員制度、「公共員」としての採用に繋がった。小さなアプローチから始める玉突きアプローチ方式も、本プロジェクトのみならず、多くの市民、住民の賛同を得て様々な活動に展開している。事業計画ではなく、目標とアプローチ手法を記載した「男山地域再生基本計画」は、従来にないもので、議会でも議論を呼んだが、団地再編、地域再生への新しいガイドとして、市民、住民に共有されつつあり、本研究プロジェクトの大きな成果といえる。

#### （4）団地再編専門家養成セミナーを通じた「団地活性化・再生マネジメント」手法の整理<sup>\*14</sup>

研究成果を基に、団地再編専門家養成セミナーを、近畿圏の若手行政職員、若手研究者等の参加を得て開催し、団地再編に寄与する多くの視点を整理したテキストの発行（ストック活用型団地再編への展望【後編】団地再編専門家養成セミナーテキスト、団地再編叢書 vol.11）に繋げた。テキストは、団地原論シリーズ、団地再編シリーズそれぞれ8編の講義で構成した。原論シリーズでは、団地の誕生からその日本での展開という歴史的な教材を前半において、その後3公住宅（公営、公社、UR都市機構）に関する教材を配した。このような講義は大学でも扱っておらず、貴重な教材が作成できた。団地再編シリーズは、コミュニティや生き方論というソフトな内容と、空間や施設再編のハードの内容を組み合わせ、コミュニティ・デザインに関する関心が高まっているなかで、意義のある教材が作成できた。

#### （5）団地活性化・再生マネジメントの取り組み事例調査とパネルディスカッションを通じた「団地活性化・再生マネジメント」の考察の深化<sup>\*15</sup>

「関西の三主要ニュータウン<千里NT、泉北NT、明舞団地>の課題と再生・再編の取り組み」

を取りまとめたことは関西における情報収集・整理として評価できる。団地再編専門家養成セミナーに併せて開催したパネルディスカッション「近代の集合住宅団地は何を目指したか？」は、セミナーの原論シリーズの内容を深化させることを狙ったものであり、パネリストの発言を通じて、日本の団地の形態的・空間的な特性ならびに社会的な特徴を描き出すことができた。これを認識することが将来の団地再編・再生を考えるにあたって不可欠と考える。「提案その1：公共住宅のストック政策の確立」、「提案その2：団地をまちにする」については、プロジェクトの再編提案や団地再編コンペの提案とも共通しており、実践のプロセスが今後の課題であることが再認識された。これらの成果は、「団地再編叢書 vol. 12」としてまとめている。

#### (6) 団地コミュニティの再編

研究期間中を通じて団地コミュニティを観察し続けてきたグループからの分析は、本プロジェクトの研究活動の総体を収めた最終報告書（平成28年1月出版予定）に収められる。

主な内容は、(1)ファミリー世帯のコミュニティから個人のコミュニティへの転換（従前、収入による住み分けが行われていた団地の現状は、リタイア層も含めきわめて多様な現状にあり、一人暮らしも多い。人と人の接点が少なくなってしまうしており、団地コミュニティは、世帯単位ではなく、個人単位で考える必要がある）、(2)出会わない空間づくりから出会う空間づくりへの転換（当初の団地設計が狙っていた居住者と現在の居住者像が異なってしまったことから、地域コミュニティが希薄なものとなった。ベトナムや中国の事例から学び、団地空間のグラデーションづくりを進めることが求められる）、(3)全員参加のコミュニティから、個人から始まるコミュニティへの転換（地域コミュニティという言葉の意味も大きく転換している。今は自治会の加入率が地域コミュニティを測る尺度ではない。団地再編の目的は居住者が元気に幸せに暮らすことにあり、そのためには、自分がやりたいことを出来ること、その場があることが重要である。人のつながりは、その次の段階に見えてくる。個人から始まるコミュニティを考えるために、まずは個人が活躍できる場をつくる必要がある）、(4)プロジェクトによる地域コミュニティ再編から、どこでも地域コミュニティ再編への転換（男山における学生の研究活動参加への評価は高いとはいえ、学生たちも実は男山団地に関わることで自分たちの「やりたいことが出来る場所」を手に入れることができた。行政職員も、「自分たちのやったことの成果を、ここだと直に感じる事が出来る」と言う。地域コミュニティの再編は、一人一人が「幸せになること」を示している。本プロジェクトは、日本の団地再編コミュニティに対し、コミュニティ・デザインに取り組む考え方を示すことが出来た）等であり、団地と対峙する研究活動の継続の中からの研究成果は貴重である。

#### (7) 団地再編ガイドライン<sup>\*16</sup>

シミュレーション研究から、実践の取り組みを通じた研究活動に発展・展開していく中で、最終成果としてのガイドラインのあり様に対する考え方も変化してきた。実践を通して行ってきた研究活動のプロセス、実践するためのラウンドテーブルの構築やコラボレーションの仕組み、そういった経緯から生まれた研究と実践活動、現在も継続中のものと今後さらに継続展開していくもの、そういった研究活動の総体が、ひとつの団地再編の技術ガイドラインであるとする考えである。

計画初年度を終え作成した「ガイドライン ver. 1（団地再編リーフレット vol. 121）」では、持続的な集住環境への再整備に際して目標とすべき要件をまとめた。その後、男山団地での提案と実践活動の中で、「UR 男山団地再編（再生・更新）にあたっての提言－再編提案とその検証から－（団地再編リーフレット vol. 122）」を公表し、それをベースにして、団地再編のプロセスを中心とした「ガイドライン ver. 2（団地再編リーフレット vol. 123）」を作成公表検討した。男山団地での実践的研究活動では、この再編提言を実施した部分が多い。ストック活用型の団地再編の場合、居住中の住民の方々のコミュニティの再編や生活意欲の再活性化のための環境再整備を目指した仕組みの再編、持続的環境への仕組みの再編といった側面が重要で、将来像を提示するとともに、そういったことに取り組み、実現させるプロセスデザインが重要だということの確認が重要な成果であった。

団地再編に向けては、具体的に行われた活動プロセス事例を辿り、参照確認しつつ、それぞれの団地再編に向けて、協働のラウンドテーブルを設置し、戦略を考えることが必要であるというのが結論である。男山に引き続いて実践活動を始めた河内長野市の場合でも、同様に活動を展開している。（団地再編専門家養成セミナー・テキスト団地再編⑧ 団地再編のプロセスとガイドライン）

研究活動の総体を収めた著作、「ストック活用型団地再編への展望－関西大学団地再編プロジェクトの研究活動（平成23年～27年）－」（平成28年1月出版）は、前編として“KSDP 団地再編プロジェクト [研究活動・プロセスの概要、団地再編に関する研究成果、国内外の団地再編の動向と団地再編を巡る討論、団地再編手法の検討と実践＋団地再編リーフレット（DVD-ROM版）]”、後編として“団地再編専門家養成セミナー・テキスト [団地原論①～⑧、団地再編①～⑧]”で構成される。

### ＜優れた成果があがった点＞

特筆すべきは、(1)シミュレーション研究から実践的研究に展開し、行政・事業者との連携の下で、男山団地での実践を通じて団地再編への取り組みが展開していること、(2)そのプロセスプランニングの手法が具体的効果を上げていること、(3)男山地域再生基本計画の策定等地域再生方策への展開と団地再編への相互作用の展開が図られていること、(4)他の団地での具体的な実践展開にも発展していること、(5)研究活動の総体を団地再編技術指針として出版したこと、である。

### ＜課題となった点＞

外部評価の指摘にある「今後、研究基盤を継続性のあるものとするためには、中堅の研究者の育成が不可欠である」に関して、次年度以降も研究拠点と活動を継続するなかで検討していきたい。

### ＜自己評価の実施結果と対応状況＞

各年度末に成果をとりまとめ、『技苑』(Innovative Technology World) に発表しており、その際に併せてプロジェクト内で「自己(内部)評価会議」をそれぞれ実施した。また、平成 24 年 9 月と平成 26 年 9 月には、学内の外部資金審査・評価委員による最終審査を受け、本学が拠点となり様々な組織を巻き込んだ幅広い実践的な活動が着実に進められているとの高評価を得た【参考資料 1 参照】。

### ＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

2 年度目から毎年、研究成果と進捗状況に関する「外部評価」をこの分野に詳しい専門家委員 3 名に委嘱して実施し、意見聴取を図り、研究の進展とともに、適切に軌道修正を行った。3 名の外部評価委員は、学術的かつ科学的委員、社会的な実践領域に詳しい元行政委員、同じく元公的事業者主体委員であり、建築学分野、特に住環境分野は、科学的側面と社会的側面を併せ持つ分野であることから、科学的のみならず、社会的な連携に関する研究と外部評価に留意した。

平成 27 年 7 月には研究活動を総括する最終外部評価を実施した。評価結果は、全員が 4 (=期待以上の成果)であった【参考資料 2 参照】。

評価の予算配分への反映に関しては、代表者が統括し、部会主査と協議の上、適切な予算配分修正を行っている。特に、実践的な展開に進展したことを受け、関連の受託研究費(8 件)等も活用してプロジェクトの適切な費用効果に留意している。

### ＜研究期間終了後の展望＞

受託研究等により、男山団地、南花台地区での団地再編実践的研究活動の継続が予定されており、研究拠点は、関西大学地域再生センター団地再編研究スタジオ(仮称)として継続予定である。

### ＜研究成果の副次的効果＞

- (1)八幡市・UR 都市機構・関西大学間(京都府立会い)の三者連携協定の締結【別紙資料 3 参照】
- (2)UR 都市機構における「団地再生における建基法 86 条の取り扱いに関する検討会」(平成 25 年度)の開催【別紙資料 5 参照】
- (3)「男山地域再生基本計画策定」、「(団地型)分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討委託」等、八幡市、河内長野市からの 9 件の受託研究【別紙資料 2 参照】
- (4)男山団地、南花台地区(連携協定を予定)における団地再編の実践活動の継続である。

### ＜研究成果の出版＞

研究開始時点で最終成果として設定した「団地再編技術ガイドライン」のとりまとめを、研究活動の総体を収めた著作「ストック活用型団地再編への展望(前編・後編)」(関西大学出版部より平成 28 年 1 月刊行)として刊行した。前編は「関西大学団地再編プロジェクトの研究活動(平成 23 年～27 年)」として、KSDP 団地再編プロジェクトの研究活動・プロセスの概要、団地再編に関する研究成果、国内外の団地再編の動向と団地再編を巡る討論、団地再編手法の検討と実践+団地再編リーフレット(DVD-ROM 版)を収録した。後編は、「団地再編専門家養成セミナー・テキスト」として平成 26 年度に開講した団地再編専門家養成セミナー[団地原論①～⑧、団地再編①～⑧]のテキストを収録した。

III 研究発表一覧 ※上記、II(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付している。

<雑誌論文>

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- \*8 A-1 保持尚志, 片岡由香, 倉知徹, 江川直樹, 公的賃貸集合住宅団地の再生における駐車場設置指導の課題, 日本建築学会計画系論文集, 81(721), 687-693 (2016). 【査読有】
- \*8 A-2 保持尚志, 片岡由香, 倉知徹, 江川直樹, 公的賃貸住宅団地におけるカーシェアリング導入による駐車場用地の転用, 日本建築学会計画系論文集, 80(718), 2861-2867 (2015). 【査読有】
- A-3 金海梨, 高田光雄, 韓屋におけるチェとマダンのつながりに対応した住生活の特徴に関する一考察:韓国現代文学作品『庭の深い家』を対象として, 日本建築学会計画系論文集 80(718), 2763-2770 (2015). 【査読有】
- A-4 宮野順子, 高田光雄, 株式会社方式によるコレクティブハウジングの運営実態:一居住者会議の項目分析を通して-, 日本建築学会計画系論文集 80(717), 2635-2644 (2015). 【査読有】
- A-5 土井脩史, 高田光雄, 可変インフィルのガイドとなる固定インフィルの設計手法に関する研究:一実験集合住宅 NEXT21 の住戸改修実験における試設計を通じて-, 日本建築学会計画系論文集 80(716), 2175-2181 (2015). 【査読有】
- A-6 前田昌弘, 石川直人, 伊藤俊介, 阪田弘一, 高田光雄, 仮設住宅居住者への"間接的支援"の成立要因と課題:- 東日本大震災における仮設住宅の住環境改善支援に関する実践的研究 -, 日本建築学会計画系論文集 80(715), 1991-1999 (2015). 【査読有】
- A-7 前田昌弘, 高田光雄, 森重幸子, 西野克裕, 京都市都心部における地蔵盆の運営実態と参加者の多様性 -レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割に関する研究-, 日本建築学会計画系論文集 80(714), 1833-1842 (2015). 【査読有】
- A-8 小玉祐一郎, 伝統建築に学ぶ夏の工夫:パッシブクーリングと現代の住まい (特集 涼しさのかたち), 日事連:建築士事務所の全国ネットワーク:JAAF monthly magazine, 53(7), 4-7 (2015). 【査読無】
- A-9 平山洋介, TASC サロン 空き家対策のあり方について, TASC monthly, (478), 6-12 (2015). 【査読無】
- A-10 平山洋介, マイホームと個人/家族化 (特集 持家社会のリスク:空間の生活保障を展望する), 生活経済政策, (224), 8-12 (2015). 【査読無】
- A-11 平山洋介, 超高齢社会の住宅条件とその階層化 (特集 活力ある超高齢社会を共創するプランニング), 都市計画, (4), 40-45 (2015). 【査読無】
- A-12 平山洋介, 住宅政策と個人/家族化(第1部 制度と建築, <特集>住まうことから制度を考える), 建築雑誌, 130(1674), 8-9 (2015). 【査読無】
- A-13 糟谷佐紀, フォーラム2015 障害者は住まいを選択できているか, ノーマライゼーション:障害者の福祉, 35(10), 39-41, (2015) 【査読無】
- A-14 糟谷佐紀, 列島縦断ネットワーク 大阪「住まい」について、住む人と創る人が一緒に考える! : 合同シンポジウム「一緒にやろうや!『住』の報告から」、ノーマライゼーション:障害者の福祉, 35(7), 50-52 (2015). 【査読無】
- A-15 室崎千重, 長期経過した分譲集合住宅における住み続けられるコミュニティづくり (特集 縮退社会におけるマンションのあり方, コト・ハイツ伏見稲荷の取り組み), 建築とまちづくり (442), 24-28 (2015) 【査読無】
- A-16 森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 京都市都心部の幹線道路沿いの細街路と高層建築物の関係, 日本建築学会計画系論文集, 80(713), 1605-1613 (2015). 【査読有】
- A-17 増岡亮, 末包伸吾, クレイグ・エルウッドの住宅建築における空間構成材とモジュール, 日本建築学会計画系論文集, 80(713), 1681-1688 (2015). 【査読有】
- A-18 平山洋介, 社会福祉 若者の住宅問題:増大する親同居, 自立阻む住居費負担, 月刊福祉 98(8), 50-53 (2015). 【査読無】
- A-19 趙賢株, 高田光雄, 既存住宅流通に伴うリフォーム実態とリフォームを前提とした既存住宅購入者の特徴, 日本建築学会計画系論文集 80(712), 1381-1390 (2015). 【査読有】
- A-20 平山洋介, 急増する空き家と政策対応 (特集 高齢者の住まい), 月刊福祉, 98(5), 38-41 (2015). 【査読無】
- A-21 平山洋介, 住宅資産所有の不平等, 世界, (869), 206-217 (2015). 【査読無】
- A-22 江川直樹, 集まって住むカタチのこれから一集住環境の再編まちづくり-, マンション学, (51), 32-37 (2015). 【査読無】
- A-23 平山洋介, 次世代を支える住宅政策を(都市自治体の土地に関する政策・施策), 都市とガバナンス, (23), 55-63 (2015). 【査読無】
- A-24 高田光雄, 木全吉彦, 加茂みどり, 鼎談 人と住まいとの関わりを考える(特集 居ごちのよい住まい), CEL : Culture,energy and life, 109, 1-7 (2015). 【査読無】

- A-25 山田雅之, 山口健太郎, 高田光雄, 高齢者向け住宅への住み替えにおける物品の希望持参量に関する研究, 日本建築学会計画系論文集 80(709), 475-483 (2015). 【査読有】
- A-26 小玉祐一郎, 総評 (特集「第 6 回サステナブル住宅賞」受賞作品紹介), IBEC, 36(1), 6-13 (2015). 【査読無】
- A-27 平山洋介, 若者で増加する親との同居 異様に重い住居費負担, エコノミスト, 93(6), 76-77 (2015). 【査読無】
- A-28 山脇博紀, 高田光雄, ポスチュアから見た重度障がい児の行動特性:医療型障害児入所施設における重度障がい児のポスチュアと施設空間要素に関する考察(その 2), 日本建築学会計画系論文集, 80(707), 43-52 (2015). 【査読有】
- A-29 平山洋介, 阪神・淡路から東北へ:住まいを再生する(特集 阪神淡路大震災 20 年:災害への備えがどう変わったか), 都市住宅学=Urban housing sciences, (88), 9-13 (2015).
- A-30 増岡亮, 末包伸吾, クレイグ・エルウッドの住宅建築の開放性にみる空間構成の類型とその移行, 日本建築学会計画系論文集, 79(706), 2775-2785 (2014). 【査読有】
- A-31 平山洋介, 住宅扶助と最低居住面積水準(特集 住宅扶助基準引き下げの問題点), 賃金と社会保障, (1621), 4-13 (2014). 【査読無】
- A-32 小浦久子, 小林正美, 地域計画の空間的まとまりと計画主体についての考察:ノルライン・ヴェストファーレン州ルール地域の地域主体と計画ガバナンスにみる論点, 都市計画論文集, 49(3), 951-956 (2014). 【査読無】
- A-33 岡絵理子, 大阪市都心 6 区における超高層集合住宅の立地動向とその実態に関する研究 (公益社団法人都市住宅学会:第 22 回学術講演会)ー研究発表論文集(学術委員会の審査に合格した論文), 都市住宅学, (87), 86-91 (2014). 【査読有】
- A-34 平山洋介, 高齢社会の都市住宅政策 (特集 超高齢社会:大都市の高齢者支援の課題), 公衆衛生, 78(9), 617-621 (2014). 【査読無】
- A-35 平山洋介, 持ち家社会と住宅政策(<特集>居住保障と社会政策), 社会政策, 6(1), 11-23, (2014). 【査読無】
- A-36 大坪明, ニューヨークの住宅団地とル・コルビュジエとの関係に関する考察, 武庫川女子大学紀要 生活環境学研究, (2), 2-11 (2014). 【査読無】
- A-37 岡絵理子, 祭りの舞台となる町並み・住まいに関する研究:一樺原市八木地区の愛宕祭を事例にー, 日本建築学会計画系論文集, 79(703), 1955-1961(2014). 【査読有】
- A-38 江川直樹, スtock活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望(2)~文科省戦略基盤団地再編プロジェクト 八幡市男山団地での実践活動から~, 都市住宅学, 86, 都市住宅学会, 58-59 (2014). 【査読無】
- A-39 高田光雄, 環境調整空間」というエンヴェロープ:「平成の京町家 東山八坂通」の試み(<特集>ビルディング・エンヴェロープ), 建築雑誌, 129(1660), 18-19 (2014). 【査読無】
- A-40 平山洋介, 住宅政策とジェンダー (特集 女性の貧困と住まい), 住宅会議, (91), 4-9 (2014)..
- A-41 小浦久子, 景観法の実績と検証 景観法が示すプランニングの可能性 (特集 景観法 10 年), 都市計画, 63(3), 10-15 (2014). 【査読無】
- A-42 A. Krstikj, 小浦久子, スコピエ・オールド・バザールにおける街区パターン:街区の発展, 類型および変容に関する分析, 日本建築学会計画系論文集, 79(700), 1337-1343 (2014). 【査読有】
- A-43 趙賢株, 高田光雄, 既存住宅購入者の住情報入手行動と入手住情報及び利用情報源に対する評価:大阪府の既存住宅購入者を対象にした調査結果を通じて, 日本建築学会計画系論文集, 79(700), 1391-1399 (2014). 【査読有】
- A-44 藤本昌也, 住まい・まちづくり新時代:「共助」を理念とした"全員参加・協働型"の「まち再生手法」を探る, 住宅土地経済, (94), 2-7 (2014). 【査読無】
- A-45 山脇 博紀, 高田光雄, 医療型障害児入所施設における重度障がい児のポスチュアと施設空間要素に関する考察, 日本建築学会計画系論文集, 79(698), 891-900 (2014). 【査読有】.
- A-46 平山洋介, 復興公営住宅の役割と課題 (特集 復興住宅とコミュニティ), まちづくり, (42), 22-26 (2014). 【査読無】
- A-47 江川直樹, スtock活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望(2)~文科省戦略基盤団地再編プロジェクト八幡市男山団地での実践活動他から~, 都市住宅学, 86, 58-59 (2014). 【査読無】
- A-48 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 33)パッシブ デザイン(最終回)パッシブデザインの展望, 省エネルギー, 66(4), 71-73 (2014). 【査読無】
- A-49 趙賢株, 高田光雄, 大島祥子, 住み継ぐという住まい方の実現に向けた住情報支援に関する研究, 住総研研究論文集, (41), 157-168 (2014).
- A-50 高田光雄, 石坂公一, 島田明夫, 第 21 回学術講演会報告 メインシンポジウム「東日本大震災復興住政策の課題と提言」, 都市住宅学, (84), 51-64 (2014). 【査読無】
- A-51 山田雅之, 山口健太郎, 高田光雄, 高齢者向け住宅への入居経緯と入居前後における生活の変化に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 79(695), 11-20 (2014). 【査読有】
- A-52 大坪明, 田園都市プレシ=ロバンソンの建設と再生に関する研究, 武庫川女子大学紀要 自然科学編, 61, 1-10 (2014). 【査読無】

- A-53 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 32)パッシブデザイン(第 5 回)環境と共生する, 省エネルギー, 66(3), 84-86 (2014). 【査読無】
- A-54 竹中優子, 朴木佳緒留, 岡田修一, 井上真理, 稲垣成哲, 川畑徹朗, 加藤佳子, 近藤徳彦, 城仁士, 長ヶ原誠, 平山洋介, 増本康平, 松岡広路, 森岡正芳, 独居高齢者の実態と生活満足度に関する調査研究, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 7(2), 139-147 (2014). 【査読無】
- A-55 平山洋介, 脱成長都市の住宅政策 (特集 見えてきた!?縮退時代のまちづくり), 地域開発, 59(4), 33-37 (2014). 【査読無】
- A-56 平山洋介, 住まいの再生をめざして(特集 震災・原発事故 3 年), 科学, 84(3), 304-308, (2014). 【査読無】
- A-57 平山洋介, 脱成長社会の住宅政策について(特集 現代日本の住宅問題), 生活協同組合研究, (457), 5-12 (2014). 【査読無】
- A-58 平山洋介, 被災者実態をふまえた住宅復興を(特集 東日本大震災と原発事故(シリーズ 14)復興/レジリエンス/コモンズ), 環境と公害, 44(2), 17-23 (2014). 【査読無】
- A-59 平山洋介, 脱成長都市の住まいとライフコース(都市圏居住の未来を探る(3)小家族都市を考える), ハイライフ研究, (16), 4-12 (2014). 【査読無】
- A-60 平山洋介, 空き家と住宅政策 (特集 都市内の空き家問題を考える), Evaluation, (52), 21-27 (2014). 【査読無】
- A-61 小浦久子, 景観計画の計画制度としての可能性 (特集 景観まちづくりの現状と課題), 新都市, 68(2), 3-6 (2014). 【査読無】
- A-62 糟谷佐紀, 仮設住宅居住者のおかれている状況:東日本大震災から 3 度目の冬を迎えて(特集 現代日本の住宅問題), 生活協同組合研究, (457), 55-57 (2014). 【査読無】
- A-63 平山洋介, 間野博, 糟谷佐紀, 東日本大震災後の住宅確保に関する被災者の実態・意向変化:岩手県釜石市の仮設住宅入居世帯に対する「2011 年夏」と「2012 年夏」のアンケート調査から, 日本建築学会計画系論文集, 79(696), 461-467 (2014). 【査読有】
- A-64 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 31)パッシブデザイン(第 4 回)パッシブクーリング, 省エネルギー, 66(2), 90-92 (2014). 【査読無】
- A-65 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 30)パッシブ デザイン(第 3 回)熱を蓄える, 省エネルギー, 66(1), 66-68 (2014). 【査読無】
- A-66 橋寺知子, 再読 関西近代建築:モダンエイジの建築遺産(58)倉敷アイビースクエア, 建築と社会 95(1102), 27-30 (2014). 【査読無】
- A-67 小玉祐一郎, 住まいと暮らしの省エネルギー(その 29)パッシブ デザイン(第 2 回)パッシブ暖房の原理, 省エネルギー, 65(12), 64-66 (2013). 【査読無】
- A-68 江川直樹, 制度の再編, TDA景観文化, 21(2013 冬), 4 (2013). 【査読無】
- A-69 古賀俊策, 相良二郎, 見寺貞子, 小玉祐一郎, かわいひろゆき, 谷口文保, 金野千恵, 技術の人間化に基づいたサステナブルデザイン, 芸術工学, 2013 (2013).
- A-70 平山洋介, 土地・持家被災から住まいを再生する (特集 進まぬ復興 交錯する思い), 月刊自治研, 55(650), 25-33 (2013). 【査読無】
- A-71 福本優, 岡絵理子, 地域環境としての市街地立地集合住宅団地の更新手法に関する研究:大阪市内の UR 都市機構団地の更新事例, 都市計画論文集 (48), 957-962 (2013). 【査読有】
- A-72 平山洋介, 息づく伝統と高速変化(特集を読んで[2013 年 8 月号 特集:アジア・ハウジング・ナウ]), 建築雑誌, 128(1650), 46 (2013). 【査読無】
- A-73 鳴海邦碩, 伝統的な祭りの現代的な意義について:都市化の過程にてらして(特集 祭りとコミュニティ), 都市問題, 104(9), 4-9 (2013). 【査読無】
- A-74 江川直樹, 専用庭, TDA景観文化, 22(2013 秋), 4 (2013). 【査読無】
- A-75 平山洋介, マイホームがリスクになるとき:ポストバブルの住宅政策, 世界, (846), 186-195 (2013). 【査読無】
- A-76 江川直樹, 倉知徹, ストック活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望, ランドスケープデザイン, (90), 114-115 (2013). 【査読無】
- A-77 大坪明, 長谷川洋, 折田泰宏, ワークショップ関西支部 汎用性を考えた、建替えない団地再生:富田第二住宅の場合(第 20 回学術講演会報告), 都市住宅学, (80), 40-45 (2013). 【査読無】
- A-78 江川直樹, 86 条一団地, TDA景観文化, 21(2013 夏), 4 (2013). 【査読無】
- A-79 江川直樹, 特集・公営住宅のジレンマ, 日経グローバル, (2013)【査読無】
- A-80 小玉祐一郎, 3.11 以後と地球環境問題(地球環境委員会活動報告 第 2 部 常置調査研究委員会・支援建築会議・特別委員会・各支部等のレポート, 建築年報 2013), 建築雑誌, 128(1649), 47 (2013). 【査読無】
- A-81 藤本昌也, つくば市中根・金田台地区まちづくり 緑地、農地に挟まれた 100 坪の住宅地 世界に誇れる新田園都市をつくる! (特集 農地ある都市デザインをつくれ), 建築ジャーナル, (1216), 6-9 (2013). 【査読無】
- A-82 末包伸吾, 論考の主題にみるルドルフ・シンドラーの「空間建築」, 日本建築学会計画系論文集

- 78(684), 509-517 (2013). 【査読有】
- A-83 三輪康一, 末包伸吾, 栗山尚子, タウンハウス団地の住み手の改変行為による景観変容と居住者意識に関する研究:一神戸市のタウンハウス団地における改変実態の分析を通して一, 日本建築学会計画系論文集, 78(683), 133-140 (2013). 【査読有】
- A-84 福井美弥, 阿部浩和, 橋寺知子, 産業遺産施設の保存活用の現状と事業主体の役割:大阪・兵庫の繊維系産業遺産施設 8 事例を対象として, 日本建築学会計画系論文集, 78(687), 1067-1076 (2013). 【査読有】
- A-85 A. Kristikj, 小浦久子, スコピエ・オールドバザールにおける歴史的場所の意義:オスマン帝国の都市戦略にもとづく公共施設配置と主要道路の分析より, 日本建築学会計画系論文集, 78(686), 829-835 (2013). 【査読有】
- A-86 大坪明, マルガレーテンヘーエ団地の都市景観の特質に関する調査研究, 武庫川女子大学紀要 自然科学編, 60, 1-9 (2013). 【査読無】
- A-87 鳴海邦碩, 「ふるさと」の根底が問われている(特集を読んで[2013年1月号|特集:福島と建築学]), 建築雑誌, 128(1642), 52 (2013). 【査読無】
- A-88 小泉和子, 小玉祐一郎, 高田光雄, 第24回住生活月間協賛 まちなみシンポジウム in 大阪 低炭素社会に活かす伝統的な日本の暮らし パネルディスカッション エネルギーを使わない豊かな暮らしとは, 家とまちなみ, 32(1), 92-99 (2013). 【査読無】
- A-89 小玉祐一郎, 大月敏雄, 小泉和子, パネルディスカッション 本当に豊かな暮らしとは(第24回住生活月間協賛 まちなみシンポジウム in 東京 伝統的な日本の暮らしに学ぶ), 家とまちなみ, 32(1), 84-91 (2013). 【査読無】
- A-90 江川直樹, 親街路性, TDA景観文化, 20(2013春), 4 (2013). 【査読無】
- A-91 室崎千重, 暮らしやすい住まい・まちづくりに関するこれまでの研究, 家政学研究, 59(2), 42-47 (2013). 【査読無】
- A-92 平山洋介, 平成24年度第1回まちづくりセミナー 都市住宅政策の再構築に向けて(名古屋都市センター事業報告), アーバン・アドバンス, (60), 47-53 (2013). 【査読無】
- A-93 平山洋介, 佐藤岩夫, 東日本大震災における岩手県釜石市の被災者に関する生活実態・意識調査の結果概要, 中央調査報, (664), 5843-5849 (2013). 【査読無】
- A-94 小浦久子, 地域環境価値の評価を創出する開発調整のための基準とその運用 (まちづくりにおける都市計画, 建築規制の権限行使のあり方:規制権者の裁量拡大論と規制基準明記論), 日本不動産学会誌, 27(3), 44-48 (2013). 【査読無】
- A-95 小浦久子, 景観と土地利用の相互性にもとづく景観計画の開発管理型運用の可能性, 都市計画論文集, (48), 585-590 (2013). 【査読無】
- A-96 江川直樹, スtock活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望 86 条一団地の解体から, 月刊ウエンディ, 2月号(285), 9 (2013). 【査読無】
- A-97 岡絵理子, 男山地域居住者への「まちとくらしのアンケート調査」から, 第17回関西大学先端科学技術シンポジウム講演集, 180-183 (2013). 【査読無】
- A-98 江川直樹, スtock活用時代の大規模公的集合住宅団地再編への展望～Stockを活かしながら団地の構造(仕組み)を再編し, 多様で自立的(持続的)な“まち”へ再生する修復型団地再編の提案 ver.1(2012), 都市住宅学, (80), 25-26 (2013). 【査読無】
- A-99 鳴海邦碩, 人間のための道路づくり:道路関連法の見直しの必要性(特集 義務付け・枠付けの見直しと自治体条例), 都市問題, 103(12), 58-67 (2012). 【査読無】
- A-100 鳴海邦碩, 阪神・淡路大震災との相違点と類似点, 都市計画, 61(5), 92 (2012). 【査読無】
- A-101 鳴海邦碩, 東日本大震災からの復興, 1年半を経過して, 都市計画, 61(5), 4-5 (2012). 【査読無】
- A-102 江川直樹, 小さく解く 混ぜて解く, 日経グローバル, 210, 9-19 (2012).
- A-103 平山洋介, 公営住宅と地方分権 (特集 義務付け・枠付けの見直しと自治体条例), 都市問題, 103(12), 49-57 (2012). 【査読無】
- A-104 平山洋介, 科学 Stock利用のための住宅政策を, 青淵, (765), 14-16 (2012). 【査読無】
- A-105 江川直樹, 倉知徹, Stockを活かしながら団地の構造(仕組み)を再編し, 多様で自立的(持続的)な“まち”へ再生する団地再編プロジェクト, 建築人, 11月号, 4-5 (2012). 【査読無】
- A-106 古賀俊策, 相良二郎, 小玉祐一郎, かわいひろゆき, 見寺貞子, 志茂浩和, 谷口文保, 金野千恵, 技術の人間化に基づいたサステナブルデザイン, 神戸芸術工科大学紀要「芸術工学」, 2012 (2012). 【査読無】
- A-107 糟谷佐紀, 人とつながるまちづくり(リレーエッセイ 福祉のまちづくり考 12), 福祉のまちづくり研究, 14(3), 45-47 (2012). 【査読無】
- A-108 平山洋介, 東京ライフスケープ(第1部「東京」をかたちづけてきた力, <特集>トーキョー・アーバニズム-駆動力, リスク, ライフスケープ), 建築雑誌, 127(1638), 20-23 (2012). 【査読無】
- A-109 橋寺知子, 再読 関西近代建築:モダンエッジの建築遺産(43)新阪急ビルディング, 建築と社会, 93(1087), 39-42 (2012). 【査読無】
- A-110 絹川麻理, 室崎千重, 在宅生活継続にむけた地区における支援環境整備のあり方に関する事例研究, 都市住宅学, 79, 38-43 (2012). 【査読有】



- A-111 小浦久子, 京都市旧市街地型美観地区における基準の運用と景観形成課題:新築戸建て住宅の通り外観構成の実態調査より, 都市計画論文集, 47, 217-222 (2012). 【査読無】
- A-112 鳴海邦碩, これからの時代のまちづくりと景観づくり, 2012 年度日本建築学会大会(東海)都市計画部門「景観の計画的リビジョン 4」, 5-8 (2012). 【査読無】
- A-113 江川直樹, 場所の声を聞く, 2012 年度日本建築学会大会(東海)都市計画部門「景観の計画的リビジョン 4」, 71-74 (2012). 【査読無】
- A-114 平山洋介, 間野博, 糟谷佐紀, 佐藤慶一, 東日本大震災における被災者の住宅事情: 岩手県釜石市の仮設住宅入居世帯に関する実態調査を通して, 日本建築学会計画系論文集, 77(679), 2157-2164 (2012). 【査読有】
- A-115 小玉祐一郎, 3.11 が問いたず持続可能性の指標(地球環境委員会活動報告, 建築年報 2012), 建築雑誌, 127(1636), 47 (2012). 【査読無】
- A-116 小浦久子, 市街地変容と景観の地域性の保全創出に関する研究(2012 年日本建築学会賞(論文)), 建築雑誌, 127(1635), 47 (2012). 【査読無】
- A-117 平山洋介, 住宅再生から地域持続へ, 東京大学社会科学研究所研究シリーズ, (51), 33-58 (2012). 【査読無】
- A-118 平山洋介, 成熟時代の住宅政策:持家社会を超えて, 世界, (833), 221-233 (2012). 【査読無】
- A-119 千葉桂司, 藤本昌也, 矢野正和, 建築家は広島にどう向き合ったか:<集住体>としての基町高層アパートと原爆スラム(座談会, 第 1 部 広島「ヒロシマ」と長崎「ナガサキ」)に向き合った建築界, <特集>広島「ヒロシマ」・長崎「ナガサキ」, 建築雑誌, 127(1635), 16-19 (2012). 【査読無】
- A-120 A. Krstikj, 日向進, 小浦久子, スコピエ・オールドバザールを構成する店舗の類型とその変容に関する研究:ヴァナキュラーユニットの形態と建築要素デザインの分析に基づいて, 日本建築学会計画系論文集, 77(678), 1881-1887 (2012). 【査読有】
- A-121 小浦久子, 安全・安心まちづくり, 道路建設, 733, 19-22 (2012). 【査読無】
- A-122 鳴海邦碩, 「(震災復興まちづくり)産業・人材活用重視を」, 河北新報 (2012.7.18). 【査読無】
- A-123 鳴海邦碩, 「月曜討論 買物公園 40 年 中心街の再生策は」, 北海道新聞 (2012.6.4). 【査読無】
- A-124 鳴海邦碩, 都市計画はアートか, 都市計画, 297, 4 (2012). 【査読無】
- A-125 平山洋介, 東北住宅復興政策の実態と課題 (特集 震災復興と住宅支援: 過去の経験を生かして), 住宅会議, (85), 20-25 (2012). 【査読無】
- A-126 平山洋介, 政策提言: 賃貸の拡充は少子化対策になる, 週刊エコノミスト, 90(25), 38-39 (2012). 【査読無】
- A-127 江川直樹, 南仏の美しい小集落を巡り歩いて, 関西大学理工学会 理工学会報, (128), 29-37 (2012). 【査読無】
- A-128 岡絵理子, 山崎寿一, 小浦久子 他, ワークショップ 被災地におけるまちなみ復興:住文化の継承とまちなみづくり (第 19 回学術講演会報告), 都市住宅学, 77, 69-74 (2012). 【査読無】
- A-129 平山洋介, 東北住宅復興の論点, 生活協同組合研究, (435), 6-11 (2012). 【査読無】
- A-130 藤本昌也, “魅力ある住宅街区づくり”に向けて、今、区画整理に何が求められているのか, 区画整理, 4-10 (2012). 【査読無】
- A-131 M. Cho, C. Murosaki, Actual Use and Characteristics of Clues for Blind Person's Independent Walking-Case Study of Kansai Region in JAPAN-, Korea Institute of Healthcare Architecture Journal, 18(1), 15-23 (2012). 【査読無】
- A-132 平山洋介, 若者に低家賃住宅を, 鑑定おおさか, 38 (2012). 【査読無】
- A-133 糟谷佐紀, 福祉用具や住宅改修がケアプランに与える影響, 神戸学院総合リハビリテーション研究, 7(2), 67-76 (2012). 【査読無】
- A-134 末包伸吾, 鳴海邦碩, 江川直樹, 岡絵理子, 建築・都市デザイン国際ワークショップに参加して, 関西大学理工学会 理工学会報, (127), 44-46 (2012). 【査読無】
- A-135 江川直樹, 大野秀敏, 柴田建, 菅孝能, まちなみを再生する, 家とまちなみ, (65), 28-35 (2012). 【査読無】
- A-136 末包伸吾, 広瀬謙二の鉄骨造独立住宅作品「SH シリーズ」の空間構成と架構形式に関する研究, デザイン理論, 59, 33-47 (2012). 【査読有】
- A-137 末包伸吾, 論考の主題と構成にみるルドルフ・シンドラーの空間構成の方針と手法, 日本建築学会計画系論文集, 77(673), 723-731 (2012). 【査読有】
- A-138 末包伸吾, ケース・スタディ・ハウス・プログラムにおけるラファエル・ソリアノの空間像:ケース・スタディ・ハウスにみるライフスタイルと空間の表象に関する研究(その 1), デザイン理論, (61), 49-62 (2012). 【査読無】
- A-139 鳴海邦碩, 住宅から見た高齢者の暮らしとこれからの千里ニュータウン, 関大生協 50 周年記念誌「千里ニュータウンのまちに生きる」, 4-17 (2012). 【査読無】
- A-140 平山洋介, 東北住宅復興政策の実態と課題 (特集 震災復興と住宅支援:過去の経験を生かして), 住宅会議, (85), 20-25 (2012). 【査読無】
- A-141 糟谷佐紀, 規格—まちづくり—, リハビリテーション・エンジニアリング, 27(1), 22-25 (2012). 【査読無】

- A-142 鳴海邦碩, 買物公園 40 年・自由空間, 北海道新聞 (2012.1.24). 【査読無】
- A-143 平山洋介, 住宅政策の新たな方向性について, 都市問題, 103(1), 4-8 (2012). 【査読無】
- A-144 平山洋介, 窪田亜矢, 震災と復興, 家計経済研究, (93), 2-16 (2012). 【査読無】
- A-145 平山洋介, 地域持続を支える住宅再生を, 世界, 826, 214-226 (2012). 【査読無】
- A-146 藤本昌也, コミュニティ・アーキテクツ, 建築士, 61(712), 23-32 (2012). 【査読無】
- A-147 藤本昌也, 復興のまちづくりと建築士の役割, ROOF&ROOFING, (2012 年新春), 10-13 (2012). 【査読無】
- A-148 小玉祐一郎, 団地再生を考えるーサステナブルということ, 月刊ウェンディ, (271), 8 (2011). 【査読無】
- A-149 前田昌弘, 高田光雄, 再定住地における生活再建とコミュニティ形成に対するマイクロクレジットの効果-インド洋津波後のスリランカにおける住宅移転をともなう再定住に関する研究(その 3), 日本建築学会計画系論文集, 76(668), 1859-1866 (2011). 【査読有】
- A-150 L. Shakya, 高田光雄, 神吉紀世子, 仏教僧院を起源とする中庭型集住体の空間構成-パタン旧市街地における共同的空間管理システムに関する研究(その 1), 日本建築学会計画系論文集, 76(668), 1781-1789 (2011). 【査読有】
- A-151 室崎千重, 増永理彦, 長期経過団地の建替えによる再入居高齢者の近所つきあいの変化に関する研究 その 2, 都市住宅学, (75), 62-67 (2011). 【査読有】
- A-152 鳴海邦碩, マイライフ・マイワーク:大阪研究とアジアの集合住宅研究, 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫レター, (冬), 13-14 (2011). 【査読無】
- A-153 平山洋介, 東北住宅復興の政策展開について, マンション学, (40), 39-42 (2011). 【査読無】
- A-154 鳴海邦碩, 新アテネ憲章に会う, 都市計画, 第 293 号, 111 (2011). 【査読無】
- A-155 絹川麻理, 室崎千重, 居住ニーズと事業化の課題からみた居住安定化にむけた小規模高齢者共同住宅事業の促進要件, 都市住宅学, (75), 50-55 (2011). 【査読有】
- A-156 穂苅耕介, 神吉紀世子, 高田光雄, 地方都市の歴史的町並みを活かしたまちづくりにおける建設業者の役割-和歌山県有田郡湯浅町を事例として, 日本建築学会計画系論文集, 76(667), 1631-1369 (2011). 【査読有】
- A-157 宮岡大, 小玉祐一郎, 武政孝治, 外気導入モードによる不快指数と結露リスクへの影響に関する検討-外気導入モードの違いがパッシブクーリング効果に及ぼす影響(その 2), 日本建築学会環境系論文集, 76 (666), 655-663 (2011). 【査読有】
- A-158 宮野順子, 高田光雄, 安枝英俊, 親子・配偶関係を含まない同居の住まい方からみた住戸内共用空間に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 76(666), 1363-1370 (2011). 【査読有】
- A-159 藤本昌也, 増山敏夫, 植久哲男, 大工と建築家で考えた合理的な木造 民家型構法 (特集 田中文男の建築学) - (民家から学ぶ), 住宅建築, (428), 24-31 (2011). 【査読無】
- A-160 藤本昌也, 建物が語る日本-広島市・基町高層アパート-, 京都新聞 (2011.8.8). 【査読無】
- A-161 平山洋介, 危機は機会なのか? 東北復興まちづくりに向けて, 世界, (820), 67-75 (2011). 【査読無】
- A-162 平山洋介, 東北住宅復興に向けて, 賃金と社会保障, (1543+1544), 9-14 (2011). 【査読無】
- A-163 藤本昌也, コミュニティ・アーキテクツ シンポジウムの狙い, 建築士, 60(707), 14-15 (2011). 【査読無】
- A-164 大坪明, 関西支部ニュース 学生による住宅公団初期テラスハウスの自主改修実験(空間構造の改編), 都市住宅学, 74, 96-101 (2011). 【査読無】
- A-165 藤本昌也, 復興への生活空間整備提案, 建設通信新聞 (2011.7.26). 【査読無】
- A-166 藤本昌也, <大月敏雄×藤本昌也>UIA2011 東京大会CAシンポジウムに向けて, 建築士, 60(706), 20-24 (2011). 【査読無】
- A-167 大坪明, 学生による住宅公団初期テラスハウスの自主改修実験(空間構造改編), 都市住宅学, 74, 96-101 (2011). 【査読無】
- A-168 鳴海邦碩, 伝えたい故郷の景観-阪神・淡路大震災からの復興の経験から, 観光文化, (208), 6-10 (2011). 【査読無】
- A-169 平山洋介, 東日本大震災と住宅復興, 地方自治職員研修, 610, 115-123 (2011). 【査読無】
- A-170 小浦久子, 生活環境の景観利益をめぐって-地域で共有される環境価値が心地よい生活風景を生み出す, 公営企業, 43(3), 9-16 (2011). 【査読無】
- A-171 服部岑生, 平山洋介, 建築の境界と制度, 建築雑誌, 126(1619), 12-17 (2011). 【査読無】
- A-172 藤本昌也, 東日本大震災とこれからの建築・都市・国土, 建築雑誌, 126(1619), 3-8 (2011). 【査読無】
- A-173 江川直樹, 居住再生という建築行為を通して考える“建築の可能性”, 建築とまちづくり, (399), 11-16 (2011). 【査読無】
- A-174 藤本昌也, 私たちがつくる住まいのまちなみ, 日本経済新聞 (2011.5.21). 【査読無】
- A-175 平山洋介, 持家取得における既婚女性の就業の役割, 日本建築学会計画系論文集, 76(663), 983-992 (2011). 【査読有】
- A-176 檜谷美恵子, 広原盛明, 高田光雄, シンポジウム報告「都心・まちなか・郊外の共生」出版記念

シンポジウム, 都市住宅学, 73, 85-90 (2011). 【査読無】

A-177 平山洋介, 住宅政策の転換とセーフティネット, 社会福祉研究, (110), 26-35 (2011). 【査読無】

A-178 藤本昌也, 新たな建築・まちづくりに関わる制度と仕組みはどうあるべきか, 建築士, 60(703), 40-43 (2011). 【査読無】

A-179 末包伸吾, 空間への愛着のために: つくるからつかうへ, 関西大学教育後援会 葦, (148), 35 (2011). 【査読無】

A-180 岡絵理子, 香港 特異な歴史が育んだ住宅地—九龍塘, 家とまちなみ, (63), 15-17 (2011). 【査読無】

A-181 大坪明, 1930 年代オランダの集合住宅に見る住戸内における室区画の柔軟性の実現要因に関する考察, 武庫川女子大学紀要自然科学編, 59, 7-16 (2011). 【査読無】

A-182 前田昌弘, 高田光雄, 神吉紀世子, 世帯間関係の組み合わせパターンと住宅敷地所有・利用関係の分析—インド洋津波後のスリランカにおける住宅移転をとまなう再定住に関する研究(その2), 日本建築学会計画系論文集, 76(661), 617-624 (2011). 【査読有】

A-183 平山洋介, 第 13 回市町村議会議員研修会 記念講演から 住宅政策の再構築に向けて, 住民と自治, (575), 28-34 (2011). 【査読無】

A-184 平山洋介, 住宅の市場化政策とセーフティネット (特集 低所得者の住まいをどう確保するか), 月刊福祉, 94(3), 12-16 (2011). 【査読無】

A-185 林泰義, 西村幸夫, 対談 市民事業は前進する, まちづくり, 30, 4-12 (2011). 【査読無】

A-186 増淵昌利, 高田光雄, 建築基準法に基づく完了検査実施率の向上に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 76(660), 415-420 (2011). 【査読有】

A-187 平山洋介, 都市住宅政策の再構築に向けて (特集 2010 建築とまちづくり東京/40 周年記念フォーラム宮城 社会が要請する新たな空間), 建築とまちづくり, (395), 6-16 (2011). 【査読無】

A-188 A.-Z. Rafif, 小浦久子, ヨルダン・サルトにおける伝統的な建築物の歴史性に対する公的機関の考え方に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 76(660), 397-403 (2011). 【査読有】

A-189 鳴海邦碩, 景観法と景観からのまちづくり, 月刊自治フォーラム, (617), 12-18 (2011). 【査読無】

A-190 大坪明, ストック再生実証試験の今後に期待するもの (特集 UR 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験—ストック活用時代の夜明け), 建築と社会, 92(1066), 38-40 (2011). 【査読無】

A-191 平山洋介, 住宅政策の転換と国/自治体 (特集 自治体の住宅政策はどうあるべきか), 住宅, 60(1), 51-57 (2011). 【査読無】

A-192 平山洋介, 親子近居と住宅政策 (特集 近居・隣居のススメ—「住宅に住む」から「地域に住む」へ), すまいろん, 97, 34-37 (2011). 【査読無】

A-193 星田逸郎, 忽那裕樹, モデル住棟の改修コンセプトと設計技術 (特集 UR 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験—ストック活用時代の夜明け), 建築と社会, 92(1066), 24-28 (2011). 【査読無】

A-194 星田逸郎, 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験 (特集 UR 向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験—ストック活用時代の夜明け), 建築と社会, 92(1066), 11-16 (2011). 【査読無】

A-195 小浦久子, 大規模建築物を地域環境と調整するしくみ—芦屋市の景観まちづくりにおける行政指導から法定手続きへ (特集 紛争・訴訟問題からみたまちづくり手法の有効性と限界), 日本不動産学会誌, 24(4), 59-64 (2011). 【査読無】

## <図書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

B-1 KSDP 団地再編プロジェクト, ストック活用型団地再編への展望【前編】 関西大学団地再編プロジェクトの研究活動(平成 23~27 年度), 関西大学出版部, 総ページ 243 (2016).

B-2 KSDP 団地再編プロジェクト, ストック活用型団地再編への展望【後編】 団地再編専門家養成セミナーテキスト, 関西大学出版部, 総ページ 247 (2016).

\*3 B-3 岡絵理子 他 6 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 13 「まちを元気にする方法-仕掛人 6 人へのインタビュー」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 56 (2015).

B-4 江川直樹, 倉知徹, 辻村修太郎, 他, 大規模公的集合住宅団地の再編をめざして まずは「86 条 1 団地」の解体から, 団地再生まちづくり 4, 水曜社, 45-49 (2015).

\*3, \*15 B-5 鳴海邦碩 他 7 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 12 「団地再編パネルディスカッション・関西 3 ニュータウンの現状と課題」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 110 (2015).

\*3, \*14 B-6 江川直樹, 鳴海邦碩, 岡絵理子 他 9 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 11 「団地再編専門家養成セミナーテキスト <団地原論シリーズ・団地再編シリーズ>」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 230 (2015).

- \*3 B-7 曾根幸一, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 10「幕張ペイタウン」とその背景, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 82 (2015).
- \*3 B-8 KSDP 団地再編プロジェクト, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 09「御坊市宮島団地建替事業 図面集(第1~5期)」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 516 (2015).
- B-9 KSDP 団地再編プロジェクト, 団地再編 COMPETITION2013 作品集, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 62 (2014).
- \*3 B-10 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 高田光雄, 小玉祐一郎, 平山洋介, 小浦久子, 糟谷佐紀, 室崎千重, 林泰義, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 片岡由香, 角橋徹也, 保持尚志, 佐藤健正, 宮崎篤徳, 荒木公樹, 増田和起, 増永理彦, 井上洋司, 三谷幸司, 菊田純一, 他 25 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 08「団地再編 住みよいまちへ 2012- LEAFLET:001~138」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 476 (2014).
- \*3 B-11 大坪明, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 07「近隣地域マネジメント」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 88 (2014).
- \*3 B-12 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 高田光雄, 小玉祐一郎, 平山洋介, 小浦久子, 糟谷佐紀, 室崎千重, 林泰義, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 片岡由香, 角橋徹也, 保持尚志, 佐藤健正, 宮崎篤徳, 荒木公樹, 増田和起, 増永理彦, 井上洋司, 三谷幸司, 菊田純一, 他 25 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 06「団地再編 住みよいまちへ 2012- LEAFLET:091~138」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 190 (2013).
- \*3 B-13 江川直樹, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 05「集住環境による地域再生—暮らしとまちを再生しながら棲むカタチ—」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 125 (2013).
- \*3 B-14 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 小玉祐一郎, 糟谷佐紀, 室崎千重, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 角橋徹也, 佐藤健正, 荒木公樹, 増永理彦, 三谷幸司, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 04「KSDP 団地再編プロジェクト Profile Sheet:2012」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 44 (2013).
- \*3 B-15 大坪明, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 03「住宅団地による街づくりの歴史(第二次世界大戦以前)」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 118 (2013).
- \*3 B-16 佐藤健正, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 02「イギリス社会住宅の団地再生」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 100 (2013).
- \*3 B-17 江川直樹, 鳴海邦碩, 末包伸吾, 岡絵理子, 橋寺知子, 高田光雄, 小玉祐一郎, 平山洋介, 小浦久子, 糟谷佐紀, 室崎千重, 林泰義, 藤本昌也, 安原秀, 星田逸郎, 大坪明, 倉知徹, 片岡由香, 角橋徹也, 保持尚志, 佐藤健正, 宮崎篤徳, 荒木公樹, 増田和起, 増永理彦, 井上洋司, 三谷幸司, 菊田純一, 他 25 名, 団地再編叢書(Re-DANCHI booklet) 01「団地再編 住みよいまちへ 2012- LEAFLET:001~090」, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 286 (2013).
- B-18 江川直樹, 集住環境による地域再生—暮らしとまちを再生しながら棲むカタチ—, 関西大学先端科学技術推進機構地域再生センター, 総ページ 125 (2013).
- B-19 井口勝文, 江川直樹, 若本麗湖, 難波健, 鳴海邦碩, イタリアの都市から学ぶ日本の小都市の可能性, まちづくり新書(電子書籍), 学芸出版社 (2013).
- B-20 荒木公樹, 高田光雄, 他 14 名, 堀川団地再生プログラムの研究開発報告書, 京都府住宅供給公社, 京都大学大学院工学研究科, 18-19, 22-25, 総ページ 55 (2012).
- B-21 荒木公樹, 高田光雄, 他 7 名, 堀川団地「やわらかい」まちづくり再生ビジョン, 京都大学大学院工学研究科, 12-15, 17, 総ページ 29 (2012).
- B-22 北徹, 室崎千重 他 2 名, IV.環境制度 8.高齢者にやさしい住境, 健康長寿学大辞典 QOL から EBM まで, 735-739, 西村書店, 総ページ 825 (2012).
- B-23 平山洋介, 他 6 名, 地域社会圏主義, INAX 出版, 94-117, 総ページ 152 (2012).
- B-24 小玉祐一郎 他 13 名, 3.11 後の建築・まち われわれは明日どこへ住むか, 彰国社, 192-195, 総ページ 199 (2011).
- B-25 佐藤滋, 鳴海邦碩 他 10 名, 風景の再生 東日本大震災からの復興まちづくり, 大月書店, 総ページ 320 (2011).
- B-26 末包伸吾 他 5 名, 尼崎市都市美形成計画, 尼崎市, 総ページ 104 (2011).
- B-27 室崎千重 他 10 名, 都市・まちづくり学入門, 学芸出版社, 202-216 (2011).
- B-28 糟谷佐紀, 増永理彦, 他 67 名, 御坊市宮島団地, 60 プロジェクトによむ日本の都市づくり, 日本都市計画学会編, 朝倉書店, 162-163, 総ページ 220 (2011).
- B-29 平山洋介, 都市の条件—住まい、人生、社会持続, NTT 出版, 総ページ 265 (2011).
- B-30 江川直樹, 場所の声を聞く, 関西大学出版部, 総ページ 210 (2011).

- B-31 江川直樹 他 89 名, 現代日本の建築 vol.4, ARTBOX インターナショナル, 30-31, 総ページ 204 (2011).
- B-32 大坪明 他 18 名, 《生活環境学の知》を考えるシリーズ 生活をデザインする, 光生館, 107-115, 総ページ 192 (2011).
- B-33 江川直樹, 小浦久子, 鳴海邦碩 他 41 名, 東日本大震災・原発事故 復興まちづくりに向けて, 学芸出版社, 86-89, 88-94, 109-113, 総ページ 240 (2011).
- B-34 江川直樹, 小浦久子, 鳴海邦碩, 岡絵理子, 星田逸郎 他 67 名, JUDI KANSAI 仕事の軌跡と展望, 都市環境デザイン会議開催ブロック, 80-83, 84-85, 86-89, 98-101, 126-129, 220-223, 総ページ 280 (2011).
- B-35 小玉祐一郎 他 18 名, 設計のための建築環境学, 彰国社, 8-9, 総ページ 126 (2011).
- B-36 鳴海邦碩, 「10 復興のまちづくり:概説-基本的視点」, 「10 復興のまちづくり:景観形成と復興まちづくり」, 「10 復興のまちづくり:生活空間の継続を目指した復興まちづくり」, 「10 復興のまちづくり:復興と中心市街地の活性化」, 「第 3 復旧・復興」, 災害対策全書, 396-397, 404-409, 全 4 巻, ひょうご震災記念 21 世紀研究機構, 総ページ 1900 (2011).

## <学会発表>

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- \*11 C-1 松浦知子, 倉知徹, 宮崎篤徳, 辻村修太郎, 江川直樹, 団地再編におけるコミュニティ拠点1年目の利用実態と存在意義に関する実践的研究-UR 男山団地を対象として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-2 大坪明, 米政府関与の第一次世界大戦時緊急住宅供給の意義に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-3 牛山あやか, 高田光雄, 加茂みどり, 近本智行, 非日常的状況における集合住宅の中間領域の使われ方の研究-大阪ガス実験集合住宅 NEXT21 を事例として-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-4 生川慶一郎, 高田光雄, 近本智行, 土井脩史, 原田和幸, 居住者の住み方に配慮した部分断熱改修設計の検討-伝統構法の木造住宅における断熱改修手法に関する研究 その 1-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-5 土井脩史, 高田光雄, 近本智行, 生川慶一郎, 原田和幸, 居住者の住み方から見た部分断熱改修の意義-伝統構法の木造住宅における断熱改修手法に関する研究 その 2-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-6 金海梨, 高田光雄, 韓国現代文学作品に見るチェとマダンの関係に関する一考察-小説「庭の深い家」に描かれた生活の様子を通じて-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-7 藤田麻由実, 高田光雄, 前田昌弘, 森重幸子, 岡山県瀬戸内市牛窓地区における木造住宅の住み継ぎに関する研究-住み継ぎを実践する居住者へのインタビュー調査を通して-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-8 門田知優里, 小浦久子, 地域と店の営みの相互性が生み出す地域性の持続に関する研究-大阪市北区天満地区を対象として-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-9 大森聡子, 高田光雄, 前田昌弘, 森重幸子, 京都市都心部における細街路の課題に関する研究-歴史細街路の維持保全に向けて-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-10 茅野壮志, 小浦久子, 密集市街地の路地空間の認識における空き地・空き家の影響に関する研究-神戸市兵庫区山麓防災再開発促進地区を対象として-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-11 前田昌弘, 高田光雄, 山崎圭史, 田中哲, 京都市都心部有隣学区における伝統産業事業所の変遷-ものづくりを通じた歴史的市街地におけるまちづくり活動に関する研究 その 1-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-12 田中哲, 高田光雄, 前田昌弘, 山崎圭史, 藤田麻由実, 京都市都心部有隣学区における職人の暮らしと地域との関わり-ものづくりを通じた歴史的市街地におけるまちづくり活動に関する研究 その 2-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
- C-13 玄伽椰, 三輪康一, 末包伸吾, 水野優子, 栗山尚子, まちづくりアーカイブズの構築とその課題に関する研究-神戸市におけるまちづくり資料を事例として-, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).

	C-14	田中宏典, 小浦久子, 集落地における建て替え更新による住宅タイプの成り立ちに関する考察 茨木市東福井集落におけるケーススタディ, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
	C-15	馬庭泰介, 小浦久子, 生活利便性の高い地域における自動車利用に関する研究—大阪都心 部近郊地区の生活行動調査より—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2015.6).
*8	C-16	保持尚志, 片岡由香, 角橋徹也, 倉知徹, 江川直樹, 団地における駐車場設置・車保有実態 と自治体による駐車場設置基準の運用・規定状況 公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場 空間の再構築に関する研究(その2), 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-17	板谷幸歩, 平山洋介, 東日本大震災における通学区域政策と子どもの生活空間, 日本建築学 会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-18	原可奈子, 平山洋介, 学童保育における空間構成と子どもの過ごし方に関する研究:日本と デンマークの比較分析を通じて, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-19	糟谷佐紀, 平山洋介, 独立世帯の形成を望む障害者の住宅事情, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-20	井垣量子, 小山明, 小玉祐一郎, イル・ジエラソーレの向日性機構について:回転住居における 日照モデルシミュレーション, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-21	小玉祐一郎, 武政孝治, 松元良枝, 宮岡大, 設計支援のためのパッシブ気候図の作成と活用, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-22	武政孝治, 小玉祐一郎, 松元良枝, 宮岡大, パッシブデザインのための年間時刻別温度表現 方法について, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-23	忽那知輝, 小浦久子, 中心市街地の賑わい創出における都市の多様性に関する研究:北船場 の都市空間分析より, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-24	安福和弘, 小浦久子, 京都市北区中川地区における倉庫および倉庫周辺の作業空間に関す る調査, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-25	山崎圭史, 高田光雄, 前田昌弘, 地区計画によるワンルーム規制が地域の人口キャパシティ に与える影響:京都市都心部の有隣学区を事例として, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-26	西野克裕, 森重幸子, 高田光雄, 山崎圭史, 前田昌弘, 行事運営への関わり方に着目した地 蔵盆の役割:京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 そ の3, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-27	藤田麻由実, 森重幸子, 高田光雄, 西野克裕, 前田昌弘, 山崎圭史, レジリエントなコミュニ ティの形成と地蔵盆の関係性:京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に 関する研究 その4, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-28	森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 金海梨, 西野克裕, 大森聡子, 久保由華, 山崎圭史, D. K. Wallin, 田の字地区内の細街路の属性:京都市都心部における細街路の現状 その1, 日本建 築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-29	大森聡子, 森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 金海梨, 西野克裕, 久保由華, 山崎圭史, D. K. Wallin, 田の字地区内の2006年以降に消滅した細街路:京都市都心部における細街路の現状 その2, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-30	「京町家における地域居住文化に配慮した部分断熱改修 その1」, 生川慶一郎, 土井脩史, 高田光雄, 酒向真考, 近本智行, 原田和幸, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫(2014.9).
	C-31	田中哲, 土井脩史, 高田光雄, 酒向真考, 近本智行, 原田和幸, 生川慶一郎, 京町家におけ る地域居住文化に配慮した部分断熱改修 その2, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫(2014.9).
	C-32	趙賢株, 高田光雄, 前田昌弘, 久保由華, 遠隔地避難者の住情報ニーズと情報収集の実態: 東日本大震災における京都市への避難者の住情報ニーズに関する研究 その1」, 日本建築 学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-33	久保由華, 高田光雄, 前田昌弘, 趙賢株, 遠隔地避難の経緯と住生活の変化に伴う不安・不 満に関する考察:東日本大震災における京都市への避難者の住情報ニーズに関する研究 そ の2, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
*4	C-34	大坪明, 田園都市プレシ=ロバンソンの再生に関する研究, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-35	山ノ井大輔, 平山洋介, 親子近居の住居条件」, 日本建築学会大会(近畿), 兵庫 (2014.9).
	C-36	糟谷佐紀, 平山洋介, 独立世帯の形成を望む障害者の住宅事情」, 日本建築学会大会(近 畿), 兵庫 (2014.9).
*11	C-37	辻村修太郎, 出町慎, 安原秀, 江川直樹, 「団地再編におけるコミュニティ拠点」開設の経緯と 利用実態に関する実践的研究—UR 男山団地だんだんテラスを対象として—, 日本建築学会 近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).

- \*8 C-38 保持尚志, 片岡由香, 角橋徹也, 倉知徹, 江川直樹, 大阪府下自治体における駐車場の設置基準と団地の駐車場設置・車保有実態—公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その2)—, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- \*4 C-39 大坪明, 田園都市プレシ=ロバンソンの再生に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-40 中前佐和子, 小浦久子, 商店街におけるチャレンジショップへの取組と期待される効果:奈良もちいどのセンター街を事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-41 安福和弘, 小浦久子, 京都市北区中川地区における倉庫および倉庫周辺の作業空間に関する調査, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-42 高橋佳那, 岡絵理子, 居住からみた千里ニュータウン近隣センターの再生・再編に関する基礎的研究:長屋型店舗付住宅の居住実態調査を通して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-43 福本優, 岡絵理子, 江川直樹, 千里ニュータウンにおける集合住宅団地の建て替え事業及び新規集合住宅供給の実態に関する基礎的研究:地域環境としての集合住宅団地の在り方について, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-44 牧角雄, 岡絵理子, 戸建住宅地居住者の地区計画制度の認知・認識に関する研究:猪名川パークタウンを事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-45 水野陽介, 末包伸吾, 増岡亮, クレイグ・エルウッドの独立住宅作品における空間構成手法に関する研究:(空間の連続性)とその変遷に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-46 佐々木康人, 末包伸吾, リチャード・ノイトラの建築思想の形成過程に関する建築意匠論的研究:『Life and Shape』にみる<同化・融和"assimilation・fuse">の思想に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-47 金海梨, 高田光雄, 韓屋建築家の自邸と彼の作品に現れる伝統的生活文化の保全再生の現状:既存韓屋の改修事例に見る伝統的生活文化の現代的継承 その1, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-48 金海梨, 高田光雄, 外国人居住者の韓屋住まいに現れる伝統的生活文化の保全再生の現状:既存韓屋の改修事例に見る伝統的生活文化の現代的継承 その2, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-49 江川知里, 高田光雄, 野原俊介, 土井脩史, 川幡祐子, 住みこなしに着目した賃貸集合住宅居住者のDIYニーズに関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-50 土井脩史, 高田光雄, 江川知里, 既存賃貸集合住宅の住戸改修におけるDIYの導入に関する研究:京都府堀川団地を事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-51 山崎圭史, 高田光雄, 前田昌弘, ワンルーム規制が地域の人口キャパシティに与える影響に関する研究:京都市都心部の有隣学区を事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-52 前田昌弘, 高田光雄, 西野克裕, 森重幸子, 京都市都心部における地蔵盆の開催実態と参加者の多様性:レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究 その1, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-53 西野克裕, 高田光雄, 前田昌弘, 森重幸子, 山崎圭史, 地蔵盆の運営からみた町内への関わり方の冗長性:レジリエントなコミュニティ形成における地蔵盆の役割に関する研究 その2, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-54 大森聡子, 森重幸子, 高田光雄, 前田昌弘, 金海梨, 西野克裕, 村田真悟, 久保由華, 山崎圭史, D. K. Wallin, 京都市都心部における細街路の現状:歴史細街路の維持保全に向けて, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-55 久保由華, 高田光雄, 前田昌弘, 趙賢株, 京都における遠隔地避難者の住情報ニーズと情報収集実態:東日本大震災における遠隔地避難者の住情報ニーズに関する研究 その1, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-56 趙賢株, 高田光雄, 前田昌弘, 久保由華, 京都市への避難に伴う住生活の変化とその課題に関する考察:東日本大震災における遠隔地避難者の住情報ニーズに関する研究 その2, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2014.6).
- C-57 M. Araki, N. Egawa, Renewal and Overall Plan of "Sakura Machi" at Hamakoushien Housing Complex -Reorganization from Housing Complex to Block-type Town-, International Symposium on City Planning 2013 Sendai City, Miyagi, Japan (2013.8).
- C-58 A. Miyazaki, N. Egawa, Prospect of Reorganization of Large-scale Public Collective Housing Complex, Corresponding to Contemporary Trends of Utilizing Existing Building Stocks -Review on Article 86 of the Building Standard Act, regarding the case of Demolition of a Single Housing Development-, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).

C-59	S. Tsujimura, M. Araki, <u>S. Yasuhara</u> , <u>N. Egawa</u> , Changes of Space in Case of Self-Renovation by Residents of Collective Rental Housing Complexes -Housing Unit C2-305, Otokoyama Housing Complex in Kyoto Prefecture-, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
*8 C-60	T. Yasumochi, Y. Kataoka, T. Kurachi, <u>N. Egawa</u> , Possibility of Reduction of Parking Space in Public Collective Housing Complex from Viewpoint of Residents -In the case of Otokoyama Housing Complex in Yawata city, Kyoto Prefecture-, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
*4 C-61	T. Kurachi, <u>N. Egawa</u> , Tendency of Reorganized Space from the Viewpoint of Space Analysis of European and Asian Renewed Housing Complexes, International Symposium on City Planning 2013, Miyagi, Japan (2013.8).
C-62	辻村修太郎, 坂口文彦, 中尾礼太, 吉浦啓史, 吉田祐介, <u>安原秀</u> , 荒木公樹, <u>江川直樹</u> , 賃貸集合住宅団地における居住者改修の提案モデル 京都府男山団地 C2-305 を対象とした住戸改修実験(その1), 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-63	吉田祐介, 坂口文彦, 辻村修太郎, 中尾礼太, 吉浦啓史, <u>安原秀</u> , 荒木公樹, <u>江川直樹</u> , 賃貸集合住宅団地における居住者改修の可能性 京都府男山団地 C2-305 の住戸改修実験(その2)J, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*8 C-64	保持尚志, 片岡由香, <u>江川直樹</u> , 倉知徹, 住民の意向からみた公的集合住宅団地における駐車場空間削減の可能性 -公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その1), 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*4 C-65	宮崎篤徳, 倉知徹, <u>江川直樹</u> , 欧州の再生団地の再生後の空間特質の傾向 集合住宅団地再編における空間再編に向けた計画論 その1, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*4 C-66	倉知徹, 宮崎篤徳, <u>江川直樹</u> , 欧州の再生団地の再生後の空間分析から見る再編空間の方向性 集合住宅団地再編における空間再編に向けた計画論 その2J, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-67	松元良枝, <u>小玉祐一郎</u> , 武政孝治, 宮岡大, パッシブシステムにおける夏期の日射遮蔽装置が室内熱負荷に及ぼす影響について:その4 ブラインドの位置が冷房負荷、室内照度に及ぼす効果, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-68	武政孝治, <u>小玉祐一郎</u> , 宮岡大, 松元良枝, パッシブシステムにおける夏期の日射遮蔽装置が室内熱負荷に及ぼす影響について:その3 ブラインドの位置が自然室温に及ぼす効果, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-69	咸俊, <u>小玉祐一郎</u> , 堀尾岳成, 金谷聡, 小規模事務所建築における夜間換気・躯体蓄冷の効果:対象建物概要とバランス型逆流防止換気窓の通風量の測定結果, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
C-70	奥茂謙仁, 澤田誠二, 大坪明, 砂金宏和, 水野成容, 横谷功, 老朽化した集合住宅団地の再生・再編プロジェクトの評価に関する研究, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*4 C-71	大坪明, マルガレーテンヘーエ団地の都市空間の特質に関する調査研究, 日本建築学会大会(北海道), 北海道 (2013.8).
*8 C-72	保持尚志, 片岡由香, <u>江川直樹</u> , 倉知徹, 男山団地における住民意向からみた駐車場利用状況の可能性-公的集合住宅団地の再編に向けた駐車場空間の再構築に関する研究(その1)-, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.8).
C-73	辻村修太郎, 坂口文彦, 中尾礼太, 吉田祐介, 吉浦啓史, <u>安原秀</u> , 荒木公樹, <u>江川直樹</u> , 賃貸集合住宅団地における居住者による住戸改修実験-京都府男山団地 C2-305 住戸をモデルとして-, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.8).
C-74	<u>岡絵理子</u> , <u>江川直樹</u> , 開発から45年が経過した郊外大規模団地の暮らしと住意識に関する研究-公的セクター供給の八幡市男山団地を事例に, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.6).
*4 C-75	倉知徹, 保持尚志, 増田和起, <u>江川直樹</u> , 欧州の再生団地の再生後の空間分析から見る再編空間の方向性, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.6).
C-76	門田晃明, 福本優, 中尾礼太, <u>岡絵理子</u> , 共同建て替え事業による地域主体の再編と地域再生の可能性に関する研究(1):吹田市旭通り商店街鉄骨長屋を事例として, 建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2013.6).
C-77	<u>糟谷佐紀</u> , 東日本大震災における被災者実態と住宅復興(その2)住宅状況に関する釜石市のケーススタディ, 日本建築学会大会(東海), 愛知 (2012.9).
C-78	<u>Y. Hirayama</u> , Neoliberalism and low-income housing in Japan, International Conference on Housing Welfare and Public Policy, Seoul, Korea (2012.9).
*4 C-79	倉知徹, <u>江川直樹</u> , <u>岡絵理子</u> , <u>糟谷佐紀</u> , 欧州団地再生事例における空間変化と実施体制-イギリス・ドイツ・オランダの再生事例の場合-, 日本建築学会大会(東海), 愛知 (2012.9).
C-80	<u>糟谷佐紀</u> , 介助・介護を必要とする旅行者の公的サービス利用の可能性に関する基礎的研究, 日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会, 福岡 (2012.8).



- C-81 糟谷佐紀, 公的介護サービスの居住地外給付に関する自治体の運用手法に関する調査, 第27回リハ工学カンファレンス, 福岡 (2012.8).
- C-82 澤田沙希, 岡絵理子, 都市型短期滞在型ゲストハウスの地域まちづくりへの可能性に関する研究: 関西4市のゲストハウスを事例に, 日本都市計画学会関西支部研究発表会, 大阪 (2012.7).
- \*4 C-83 倉知徹, 江川直樹, 岡絵理子, 鳴海邦碩, 角橋徹也, 欧州団地再生事例における空間変化と実施体制: イギリス・ドイツ・オランダの再生事例の場合ー, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-84 保持尚志, 増田和起, 江川直樹, 御坊市営島住宅における設計とその評価に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-85 大坪明, 1930年代オランダの集合住宅に見る住戸内における室区画の柔軟性の実現要因に関する考察, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-86 下野真理子, 三輪康一, 末包伸吾, 栗山尚子, タウンハウス団地における住み手の改変行為による景観変容とその評価に関する研究: 神戸のタウンハウス事例における生活景の評価分析を通して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-87 明石賢作, 小浦久子, 散策のための観光マップのメディア特性に関する調査研究: 奈良町の観光マップを事例として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-88 中井千尋, 小浦久子, 市街化歴による都市空間特性からみる通り景観の構成に関する研究: 豊岡市の中心市街地を対象として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-89 中村太一, 小浦久子, 「通り外観」にみる景観形成における定性基準の計画課題に関する研究: 京都市景観地区旧市街地型美観地区を対象として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-90 中村佳甫, 小浦久子, 都市空間の構成における高度利用の考え方に関する研究: 理想都市計画に見る空間利用を参照として, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-91 土居正裕, 小浦久子, 京都の地域型商店街の特性と実態に関する基礎的研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-92 福本優, 岡絵理子, 原風景ともどる場所としての集落のあり方に関する研究: 丹波市青垣町神楽地区菅原集落における茅葺古民家と所有者の現状, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-93 福本優, 岡絵理子, 小浜島集落の敷地と住まいの変容について: 八重山諸島の風土的集落の変容に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2012.6).
- C-94 母倉修, 糟谷佐紀, 鞍本長利, 着地型の高齢者・障がい者を対象とする旅行サポート事業構築: ユニバーサルツーリズムの現状と克服すべき課題と今後の可能性, 日本観光研究学会全国大会, 大阪 (2011.12).
- C-95 重村史子, 母倉修, 糟谷佐紀, 「ユニバーサルサービス」の発展・普及に向けた人材育成, 日本観光研究学会全国大会, 大阪 (2011.12).
- C-96 倉知徹, 地域づくり活動における地域交流促進を目的としたアートワークショップの効果 - 兵庫県播磨町での取り組みを事例に -, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-97 松田依子, 宮崎あゆみ, 大坪明, 住宅公団初期テラスハウスの構造改編実験の概要-3: 武庫川女子大学の改修住戸工事の結果, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-98 趙賢株, 高田光雄, 既存住宅リフォームにおける住まい手と住宅事業者のコミュニケーションツールの開発, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-99 関川華, 高田光雄, 社会住宅へのガルディアン配置に関する国民議会における議論の分析: フランス首都圏における集合住宅管理の現状に関する研究 その6, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-100 菅井牧子, 高田光雄, 関川華, 大阪都心部における職人の分布とまちとの関わりについて, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-101 村上裕幸, 高田光雄, 神吉紀世子, 安枝英俊, 複数の一人協定地区からなる住宅団地におけるまちづくりの展開に関する研究: 京都市・桂坂地区を事例として, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-102 堀諒平, 高田光雄, 安枝英俊, 近隣住区を越えたまちづくり活動を促すパートナーシップ型組織の運営に関する研究: 京都市洛西ニュータウンを事例として, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-103 伊東俊亮, 前田昌弘, 高田光雄, 片岡勇人, 安枝英俊, 有隣学区地藏めぐりイベントにおける町内と学区の関係: 京都市都心部における地藏盆の役割に関する研究 その2, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-104 片岡勇人, 前田昌弘, 高田光雄, 伊東俊亮, 安枝英俊, 有隣学区における各町内の地藏盆の運営状況: 京都市都心部における地藏盆の役割に関する研究 その1, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-105 森重幸子, 高田光雄, 安枝英俊, 京都市の中心部における歴史的細街路の変化の実態と課題: 膏薬辻子沿いの両側町・新釜座町のまちづくり活動を事例として, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).

- C-106 沖村卓哉, 山田雅之, 山口健太郎, 高田光雄, 入居者アンケート調査による管理業務に対するニーズ把握:自立高齢者を対象とした高齢者専用賃貸住宅に関する研究(その 6), 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-107 山田雅之, 沖村卓哉, 山口健太郎, 高田光雄, 業務記録閲覧調査による管理業務の量的実態把握:自立高齢者を対象とした高齢者専用賃貸住宅に関する研究(その 5), 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-108 矢谷百代, 土井脩史, 高田光雄, 趙賢株, 生川慶一郎, 藤井亮, 既存賃貸集合住宅における部分エコリフォーム手法の開発に関する研究:居住実験を通じた生活への適合性の検証, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-109 加茂みどり, 安枝英俊, 高田光雄, 土井脩史, 清家剛, 藤井亮, 実験集合住宅 NEXT21「住み継ぎの家(仮)」における環境調整空間の検討:地域の居住文化に対応した環境配慮型住宅の開発に関する研究 その 3, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-110 藤井亮, 加茂みどり, 高田光雄, 土井脩史, 安枝英俊, 「平成の京町家」における環境調整空間の検討:地域の居住文化に対応した環境配慮型住宅の開発に関する研究 その 2, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-111 高田光雄, 加茂みどり, 土井脩史, 藤井亮, 安枝英俊, 生活行為と環境調整空間の関係に関する考察:地域の居住文化に対応した環境配慮型住宅の開発に関する研究 その 1, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-112 土井脩史, 高田光雄, 安枝英俊, 加茂みどり, 固定インフィルを用いたインフィルの配置計画に関する考察:実験集合住宅 NEXT21 のリフォーム実験における試設計を通じて, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-113 宮野順子, 森重幸子, 高田光雄, 土井脩史, 安枝英俊, 桜井俊彦, 生川慶一郎, 堀川団地における法的側面からみる改修可能性の検討:市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その 4, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-114 生川慶一郎, 土井脩史, 高田光雄, 宮野順子, 安枝英俊, 桜井俊彦, 森重幸子, 堀川団地の再生におけるまちづくり協議会の設立と展開:市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その 3, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-115 前田昌弘, 高田光雄, 再定住地におけるマイクロクレジットを通じた生活再建とコミュニティ形成:インド洋津波後のスリランカ南西沿岸居住地移転事業におけるワッタの再生と変異 その 2, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-116 鈴江悠子, 高田光雄, 森重幸子, 生川慶一郎, 生活文化を含めた京町家の公開に関する研究:一般の見学への対応方法を通して, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-117 金海梨, 高田光雄, 清州市におけるウツバンコクン型住宅の生活空間の変容に関する研究:内房と釜屋に着目して, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-118 サキヤ ラタ, 高田光雄, 仏教僧院を起源とする中庭型集住体「バハ・バヒ」の所有について:ネパールのパタン旧市街地における共同的空間管理システムに関する研究, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-119 堀部礼子, 平山洋介, 若年層の居住に関する日本とデンマークの比較研究, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-120 原可奈子, 平山洋介, 生活空間としての学習塾, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-121 絹川麻理, 室崎千重, 北川博巳, 事業化課題からみた小規模高齢者共同住宅の促進支援への提案, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-122 室崎千重, 長期経過団地の建替えによる再入居高齢者の生活変化に関する研究 その 2:建替え団地の空間変化と近所つきあい変化の関わりに着目して, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-123 宮岡大, 武政孝治, 小玉祐一郎, 松元良枝, 室内環境評価・予測のためのデザインツールの研究:その 2 自然室温変動, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-124 武政孝治, 宮岡大, 小玉祐一郎, 松元良枝, 室内環境評価・予測のためのデザインツールの研究:その 1. PASSWORK と ESP-r の比較, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-125 大坪明, 宮崎あゆみ, 松田依子, 住宅公団初期テラスハウスの空間構造改編実験の概要-1-一枚方市中宮第一団地での学生による住戸自主改修実験一, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-126 宮崎あゆみ, 松田依子, 大坪明, 住宅公団初期テラスハウスの空間構造改編実験の概要-2-武庫川女子大学の改修住戸の計画一, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-127 松田依子, 宮崎あゆみ, 大坪明, 住宅公団初期テラスハウスの構造改編実験の概要-3:武庫川女子大学の改修住戸工事の結果, 日本建築学会大会(関東), 東京 (2011.8).
- C-128 糟谷佐紀, ユニバーサルサービスの発展・普及に向けた人材育成~障害講師派遣のしくみづくり~, 第 26 回リハ工学カンファレンス, 大阪 (2011.8).
- C-129 原田智弘, 末包伸吾, 建設プロセスにみる建築の公共性に関する研究:1990 年以降の市民参加型公共建築作品に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).

- C-130 松島将太, 末包伸吾, わが国の大架構建築における覆いの空間構成論とその手法に関する研究:1970年以降の建築作品の〈形態・架構・素材〉に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-131 小村秀数, 末包伸吾, 槇文彦の「記憶の形象」にみる〈奥〉の思想とその空間構成手法に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-132 宮下智美, 末包伸吾, OMAのシアトル・パブリック・ライブラリーにおける設計プロセスとその建築思想に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-133 鷲尾有美, 末包伸吾, チャールズ・ムーアの建築思想とその空間構成手法に関する研究:「ディメンション」及び1970年代初期までの独立住宅作品の空間構成の分析を通して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-134 角川雅洋, 末包伸吾, ヘルマン・ヘルツベルハーの建築思想と空間構成手法に関する研究:教育施設作品における〈spatial structure〉と〈familiarity〉に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-135 平田拓也, 末包伸吾, 山崎康弘, クレイグ・エルウッドの建築思想とその空間構成手法に関する研究:〈rhythm〉と〈order〉の関係に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-136 文元慎二, 末包伸吾, 山崎康弘, リチャード・ノイトラの独立住宅作品における空間構成とその手法に関する研究:居間空間を中心とした内外空間の構成と柱・梁の架構表現に着目して, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-137 祖父江司, 末包伸吾, 「NATURE NEAR」にみるリチャード・ノイトラの〈biorealism〉の思想とその建築的展開に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-138 井原弘策, 平山洋介, 住宅所有形態と少子化の関係についての研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-139 堀部礼子, 平山洋介, 若年層の居住に関する日本とデンマークの比較研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-140 荒木翔太, 小浦久子, 城下町都市の近代化における駅前景観の成立に関する研究(都市計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-141 小澤拓人, 小浦久子, 住宅系の町並みにおける建築物の違和感に関する研究:大阪府茨木市の市街化歴の異なる3地区における比較を通して(都市計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-142 杉中浩之, 小浦久子, 和歌山県近露集落における空き家の実態と地域環境への影響に関する調査研究(農村計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-143 坂本将則, 小浦久子, デザインプロセスにおける地域性概念の現れ方にもとづく地域性に関する研究(建築計画), 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-144 岡絵理子, 古谷彰基, 小出朗, 臨遺跡集落・エジプト サッカラ村の市街地の構造に関する研究, 日本建築学会近畿支部研究発表会, 大阪 (2011.6).
- C-145 Y. Hirayama, Housing and Generational Fractures in Japan, International Symposium on Housing and New Generation Gaps, HongKong, China (2011.5).

## <研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

※ホームページで公開している場合には、URLを記載。

<既に実施しているもの>

< D. 戦略基盤団地再編(KSDP) ホームページ >

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/ksdp/>

< E. 戦略基盤団地再編(KSDP) FACEBOOK >

<http://www.facebook.com/KSDP201109>

< F. シンポジウム、研究発表会、講演会 >

F-1 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第五回シンポジウム

江川直樹:「プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望」, 福本優:「男山団地での実践的取り組み」, 関谷大志朗:「SAC 南花台での実践的取り組み」, 倉知徹出版報告書「ストック活用型団地再編への展望」について, 武用権太, 田邊豪二, 藤岡栄「男山での連携を振り返り今後は展望する」, 関西大学 100 周年記念会館 (2016.1.22).

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/symposium/index.html>

\*11, F-2 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第四回シンポジウム

\*15 江川直樹:「プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望」, 鳴海邦碩:「近代の集合住宅団地は何を目指したか? ~団地のはじまりを振り返り明日を考える~」, 辻村修太郎:「だんだんテラスの目指すもの」, 堀口文昭:「団地と地域の再生—大学との連携を振り返って—」, 関西大学 100 周年記念会館 (2015.1.23).

- F-3 地域再生センター研究発表会(東京フォーラム)  
江川直樹, 重村力, 三好庸隆, 塚本文, 辻村修太郎, 谷ノ上浩久, 金森佳津, 猪野正浩  
「京都府八幡市男山団地だんだんテラス紹介」, 「団地再編 COMPETITION2013 概要紹介」,  
「最優秀賞受賞作品の紹介」, 「河内長野市長賞受賞作品の紹介」, 「優秀賞受賞作品の紹介」,  
「KSDP 提案の紹介」, 「大阪府河内長野市 南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル  
事業概要紹介」, 関西大学東京センター (2015.1.10).
- \*15 F-4 関西大学 戦略的研究基盤 団地再編プロジェクトパネルディスカッション  
鳴海邦碩, 陣内秀信, 服部岑生, 丸茂弘幸, 角野幸博, 江川直樹, 岡絵理子, 橋寺知子,  
星田逸郎, 安原秀, 増永理彦「近代の集合住宅団地は何を目指したか?」, 関西大学千里山  
キャンパス (2014.7.12).
- \*11, F-5 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第三回シンポジウム  
\*13 江川直樹:「プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望」, 辻村修太郎:「365 日オープンな  
コミュニティ活動拠点「だんだんテラス」開設の狙い」, 宮崎篤徳:「男山地域再生基本計画  
(案)の作成に携わって」, 弘本由香里:「地域資源とつながりの再デザイン～U-CoRo プロジ  
ェクト(Step1)の実践から～」, 関西大学 100 周年記念会館 (2014.1.23).
- F-6 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第二回シンポジウム  
ストック活用時代の大規模団地再編への視点と 住民参加による団地再生への視座  
江川直樹:「本プロジェクトのこれまでの成果報告、及びストック活用時代の大規模団地再編  
への展望(2012 提案)」, 岡絵理子:「男山地域居住者への「まちとくらしのアンケート調査」か  
ら」, 重村力:「集住と住民参加の意味」, 関西大学 100 周年記念会館 (2013.1.30).
- F-7 「地域再生センター研究発表会(東京フォーラム)  
日本における集合住宅団地の再編方向を探る  
岡絵理子, 江川直樹:「集合住宅“団地”の再編に関する技術開発研究プロジェクトのみらい」,  
大月敏雄「集合住宅団地をいかに次世代に継承するか」, 藤本昌也:「地方都市中心市街地  
再生と郊外公営住宅団地再編との連携事業の実践を通して考える」, 林泰義:「日本における  
公的住宅と周辺コミュニティの一体的マネジメントの展望」, 森永良丙, 木多道宏, 齊藤広子,  
鳴海邦碩:「ディスカッション」, 関西大学東京センター (2012.10.6).
- F-8 地域再生センター研究発表会(大阪フォーラム)  
団地再編への挑戦—団地の「まち」づくり—  
倉知徹, 江川直樹:「本技術開発研究の狙いと初年度の研究内容および二年目の研究方  
針」, 巽和夫「団地マネジメントの時代へ—UR 団地再生のこれから—」, 星田逸郎, 安原秀,  
岡絵理子:「クロストーク」, 関西大学千里山キャンパス (2012.7.14).
- F-9 地域再生センター 戦略基盤団地再編プロジェクト第一回シンポジウム  
集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究の目指すもの, 深尾精一:  
「団地型集合住宅ストックをどのように活用・更新するか」, 江川直樹:「『集合住宅“団地”の  
再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究』の目指すもの」, 関西大学 100 周年記念会館  
(2012.1.23).

#### <G. 再編提案・研究成果, 模型とパネル展, 講演会>

- \*7 G-1 [パネル展]  
「だんだんギャラリーin 天神橋 3 丁目商店街 団地再編・住みよいまちへ—男山団地ストック  
活用型団地再編への提案(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)—」, 関西大  
学リサーチアトリエ, 540 名参加(2013.5.13-21).
- \*7 G-2 [巡回展]  
「団地再編・住みよいまちへ in 新宿—海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国における  
ストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)—」,  
東京新宿パークタワー, 78 名参加(2013.3.25-27).
- \*7 G-3 [巡回展]  
「団地再編・住みよいまちへ 2012 in 八幡—海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国に  
おけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提  
案)—」, 八幡市文化センター, 116 名参加(2012.12.14-18).
- G-4 [八幡展関連講演会]  
・江川直樹, 増永理彦:「UR団地の再生と居住者参加・男山団地再生に向けて」, 笹原武志:  
「建て替え三者勉強会の誕生・継続・発展」, 八幡市文化センター, 46 名参加 (2012.12.16).  
・星田逸郎:「団地住戸のリノベーションを経験して」, 井上洋司「微気候と団地の景観—男山  
団地の緑道植栽及び路上駐車場の微気候の再生に関する方向性について」, 八幡市文化セ  
ンター, 29 名参加 (2012.12.16).
- \*7 G-5 [巡回展]  
団地再編・住みよいまちへ 2012 in 千里—海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国に  
おけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提  
案)—」, 千里ニュータウンプラザ 千里ニュータウン情報館, 123 名参加(2012.12.5-10).

- G-6 [千里展関連講演会]  
江川直樹, 増永理彦:「団地再生と居住者参加・・・千里NTの場合」, 山口岩次郎:「公社『千里西町団地』建て替えの問題点についてー千里ニュータウンに居住する住民の立場からー」, 千里ニュータウンプラザ, 27名参加 (2012.12.8).
- \*7 G-7 [企画展]  
「大阪市住まい情報センター企画展 団地再編・住みよいまちへ 2012ー海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再編への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案)ー」, 大阪市住まい情報センター, 369名参加 (2012.11.8-12).
- G-8 [大阪展関連講演会]  
江川直樹, 増永理彦:「UR 団地再生における居住者参加」, 大阪市住まい情報センター, 83名参加 (2012.11.17).

#### <H. その他の関連講演会>

- H-1 江川直樹 他, 集まって住むカタチのこれからー集住環境の再編まちづくりー, マンション学会総会メインシンポジウム, 日本マンション学会, 広島 (2015.4.25).
- H-2 江川直樹 他, いま考える新しい住まいのカタチ」, 大阪市ハウジングデザインシンポジウム, 大阪 (2015.2.11).
- H-3 江川直樹, 集まって住む環境のデザイン 場所の声を聞く, 京都景観エリアマネジメント講座 k 京都 (2014.12.21).
- H-4 江川直樹, 復興とアーバンデザイン, アーバンデザイン研究会, 愛媛 (2014.12.3).
- H-5 江川直樹, 世界の団地再生 集まって住むカタチのこれから, 集合住宅維持管理機構 30周年記念シンポジウム講演, 大阪 (2014.11.8).
- H-6 江川直樹, UR男山団地の住民コミュニティ拠点『だんだんテラス』の目指すもの, UR技術・研究報告会(大阪)特別講演, 大阪 (2014.10.16).
- H-7 江川直樹 他, 『団地再編』持続的な集住環境へー新たな生活像と風景ー, 公共住宅セミナー, 大阪 (2014.7.17).
- H-8 江川直樹 他, 『団地再編』持続的な集住環境へー新たな生活像と風景ー, 団地再編コンペシンポジウム, 大阪 (2014.7.16).
- H-9 江川直樹 他, 100年続ける団地再生活動の本質を考えるー団地再編推進の現状を踏まえて, 団地再生シンポジウム パネルディスカッション, 東京 (2014.4.18).
- H-10 江川直樹, 集まって住む環境のデザイン 場所の声を聞く, 京都景観エリアマネジメント講座, 京都(2013.12.21).
- H-11 江川直樹, 土屋貞雄, 団地の再編を考える 共空間の再生から考える UR 団地における共用部分の活用, MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト・トークセッション, UR都市機構, 大阪 (2013.11.22).
- H-12 江川直樹, 団地再編を考える, ハイライフセミナー, 映像配信 (2013.8.19).
- H-13 江川直樹, 公共的な団地は地域全体の住生活資産 “小さく解く”、”混ぜて解く”ことで周辺と融合 86条のー団地解体提案から, 第9回団地再生シンポジウム, 東京(2013.3.27).
- H-14 江川直樹, カンボジアの美しい両棲集落、南仏の美しい小集落、そして日本の集まって住む環境のデザイン」, 交通まちづくり学研究会フォーラム, 大阪 (2013.2.8).
- H-15 江川直樹, 小さく解く、混ぜて解くー再生のデザイン, 早稲田大学・関西大学 理工学研究交流セミナー第3回, 東京 (2013.1.21).
- H-16 江川直樹, 集まって住む環境のデザイン 場所の声を聞く, 京都景観エリアマネジメント講座, 京都 (2013.1.19).
- H-17 江川直樹, 公共住宅セミナーー今後の公共ストックのあり方(団地再編), 大阪(2012.11.5).
- H-18 江川直樹, 団地再生の夢, 吹田市立博物館千里ニュータウン半世紀展, 大阪 (2012.10.13).
- H-19 江川直樹, 井口勝文, 揃えないこと、揃えること, 都市環境デザインセミナー, 大阪 (2012.9.28).
- H-20 江川直樹, 場所の声を聞くーカンボジアの美しい両棲集落, アジェンダ 21・吹田講演会, 大阪(2012.7.21).
- H-21 鳴海邦碩, 21世紀の都市像, 近畿都市学会春季大会, 大阪 (2012.7.7).
- H-22 江川直樹, 南仏の美しい小集落を巡り歩いて, 甲陽園目神山地区まちづくり協議会総会記念講演, 兵庫 (2012.6.24).
- H-23 鳴海邦碩, 明日の買物公園, 道新フォーラム 買物公園のあしたー誕生 40年記念講演, 北海道 (2012.6.1).
- H-24 江川直樹, 南仏の美しい人口過少集落を訪ね歩いて, 第5回大阪市立大学都市計画研究会(COU)セミナー, 大阪 (2012.3.16).

- H-25 江川直樹, 浜甲子園団地のリニューアルを語る, 西宮まちなみ発見クラブ・フォーラム 2012, 兵庫 (2012.2.12).
- H-26 鳴海邦碩, 新アテネ憲章とその周辺, 大阪市立大学大学院講演会, 大阪 (2011.12.7).
- H-27 江川直樹, 都市環境デザイン 美しく小さな集落を巡って, JR西日本駅ビル連合会フォーラム, 大阪 (2011.11.24).
- H-28 鳴海邦碩, 都市計画の新たな展開への期待, 日本都市計画学会関西支部 20 周年記念大会講演, 大阪 (2011.10.22).
- H-29 鳴海邦碩, 景観とデザインに配慮したまちづくり, 市町村職員中央研修所レクチュア, 千葉 (2011.10.3).
- H-30 鳴海邦碩, 万博と千里ニュータウン, 生涯学習吹田市民大学講演, 大阪 (2011.6.14).
- H-31 江川直樹, 永田実, 西宮市まちなみ発見クラブの活動と浜甲子園さくら街(建替 1 期), 都市環境デザイン会議セミナー, 兵庫 (2011.4.2).

## ＜I. ワークショップ, カフェ＞

- I-1 「咲く南花台「ふりかえりだよ」全員集合」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.3.12)
- I-2 「第 8 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.2.20).
- I-3 「第 7 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2016.1.9).
- I-4 「第 6 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.12.5).
- I-5 「第 5 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.11.21).
- I-6 「第 4 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.10.3).
- I-7 「第 3 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.9.19).
- I-8 「第 2 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.8.8).
- I-9 「第 1 南花台の未来を考える住民集会」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.7.4).
- I-10 「第 5 回まるまるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.4.25).
- I-11 「第 5 回まるまるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.2.22).
- I-12 「第 4 回まるまるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2015.1.17).
- I-13 「第 3 回まるまるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2014.12.10).
- I-14 「第 2 回まるまるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2014.11.26).
- I-15 「第 1 回まるまるワークショップ」, コノミヤ南花台店 2 階特設会場 (2014.10.26).
- \*7 I-16 「だんだんワークショップ No.4 in 男山公民館」, 京都府八幡市男山公民館 (2014.1.19).
- \*7 I-17 「だんだんワークショップ No.3 in 男山公民館」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.9.29).
- I-18 「男山地域再生基本計画ワークショップ第 3 回」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.8.25).
- I-19 「男山地域再生基本計画ワークショップ第 2 回」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.8.18).
- I-20 「男山地域再生基本計画ワークショップ第 1 回」, 京都府八幡市男山公民館 (2013.8.4).
- \*7 I-21 「だんだんカフェ No.9 in 八幡市役所」, 京都府八幡市役所第 1 会議室 (2013.7.2).
- \*7 I-22 「だんだんカフェ No.8 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.5.25).
- \*7 I-23 「だんだんカフェ No.7 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.5.25).
- \*7 I-24 「だんだんカフェ No.11 in 関西大学リサーチアトリエ」, 関西大学リサーチアトリエ (2013.5.14).
- \*7 I-25 「だんだんワークショップ No.2 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.4.21).
- \*7 I-26 「だんだんカフェ No.6 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.4.19).
- \*7 I-27 「だんだんカフェ No.5 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.4.19).
- \*7 I-28 「だんだんカフェ No.4 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.4.7).
- \*7 I-29 「だんだんカフェ No.3 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.4.7).
- \*7 I-30 「だんだんカフェ No.2 in 中央集会所」, 京都府八幡市男山団地中央集会所 (2013.3.18).
- \*7 I-31 「だんだんカフェ No.1 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.3.15).
- \*7 I-32 「だんだんワークショップ No.1 in 南集会所」, 京都府八幡市男山団地南集会所 (2013.2.21).

## 14 その他の研究成果等

「13 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果、企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには下線及び\*を付けてください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

### < J. 受賞(論文・作品) >

- J-1 第二回JUDIパブリックデザイン賞・大賞  
「浜甲子園さくら街 <兵庫県西宮市>」  
建築設計: マスターアーキテクト/江川直樹, 現代計画研究所(江川直樹), 独立行政法人都市再生機構西日本支社, 都市環境デザイン会議 (2014.10.18).
- J-2 第二回JUDIパブリックデザイン賞(ブロック賞)  
「やまびこの家・目神山住民集会施設<兵庫県西宮市>」  
建築設計: 現代計画研究所(江川直樹), 都市環境デザイン会議 (2014.10.18).
- J-3 都市住宅学会賞(業績賞)  
「住棟リノベーションによる団地再生の取り組み」  
独立行政法人都市再生機構東日本賃貸住宅本部, 独立行政法人都市再生機構西日本支社, 株式会社オープン・エー, 星田逸郎空間都市研究所(星田逸郎), 株式会社 DG コミュニケーションズ大阪支社, 都市住宅学会 (2012.11.24).
- J-4 2012年日本建築学会賞(論文)  
「市街地変容と景観の地域性の保全創出に関する研究」  
小浦久子, 日本建築学会 (2012.5.30).
- J-5 第一回JUDIパブリックデザイン賞(空間賞)  
「アルカディア 21 住宅街区」  
江川直樹(現代計画研究所), 都市環境デザイン会議 (2011.10.8).

### < K. 設計・作品 >

- K-1 小玉祐一郎, 東京ガス, NTT ファシリティーズ, 「パッシブ設計と再生可能エネルギー設備 豊東京ガス磯子社宅 エスぺランサ磯子 A 棟 設計監修:小玉祐一郎(エステック計画研究所), 設計:東京ガス+NTT ファシリティーズ」, 新建築 87(13), 174-182, 202, 新建築社 (2012.8).
- K-2 末包伸吾, 山崎康弘, 「牧野の家」, 大阪府枚方市(2012.8).
- K-3 江川直樹, 池田裕彦 他, 「浜甲子園団地建替2期基本設計」, 兵庫県西宮市, UR都市再生機構 (2012.8).
- K-4 都市再生機構西日本支社, 星田逸郎(星田逸郎空間都市研究所), DG コミュニケーションズ, 「観月橋団地再生(OpenA)」, 京都府京都市, 新建築, 2012年2月号, 106-113 (2012.2).
- K-5 末包伸吾, 山崎康弘, 「阪急芦屋川駅北側広場トイレおよび景観形成デザイン」, 兵庫県芦屋市 (2012.2).
- K-6 都市再生機構西日本支社, 星田逸郎, DG コミュニケーションズ, 「観月橋団地再生計画(Bエリア)」, 京都府京都市, 新建築, 2011年8月号, 78-81 (2011.8).
- K-7 星田逸郎 他, 「向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験--都市再生機構+戸田建設グループ(戸田建設 若築建設 京都工芸繊維大学鈴木研究室 星田逸郎空間都市研究所 米谷良章設計工房 和田建築技術研究所)」, 新建築, 2011年2月号, 83-88 (2011.2).
- K-8 末包伸吾, 山崎康弘, 「小野原の家」, 大阪府箕面市 (2011.6).

### < L. 団地再編リーフレット Re-DANCHI leaflet (HPよりダウンロード可能(一部))>\*2

- L-1 VOL.192:「団地・住まい歴調査(改訂版)」(2016.3).
- L-2 VOL.191:「男山地域まちづくり連携協定を振り返り今後を展望する」(2016.3).
- L-3 VOL.190:「男山団地 地域包括ケア複合施設の建設」(2016.3).
- L-4 VOL.189:「日本の郊外住宅地の歴史とこれから 第1回咲っくなんか大学講座」(2016.3).
- L-5 VOL.188:「咲っく南花台「コノミヤテラス」の開設」(2016.3).
- L-6 VOL.187:「南花台での地域住民とのワークショップ 南花台〇〇(まるまる)ワークショップ ~南花台の未来を考える住民集会」(2016.3).
- L-7 VOL.186:「咲っく南花台わくわくプロジェクト 『南花台スマートエイジング・シティ』団地再生モデル事業」(2016.3).
- L-8 VOL.185:「団地再編 COMPETITION2013 と『南花台スマートエイジング・シティ』団地再生モデル事業, 関西大学地域再生センター研究発表会の開催 (2015.8).

*11	L-9	VOL.184:だんだんテラス活動報告⑤公的賃貸集合住宅団地における住民による自立能動的な共用空間への表出の可能性に関する研究 (2015.8).
*11	L-10	VOL.183:だんだんテラス活動報告④Local Architects という新たな設計手法の展望と可能性-LAs のデザイン手法を用いた京都府八幡市男山地域の提案- (2015.8).
*11	L-11	VOL.182:だんだんテラス活動報告③UR賃貸住宅における在居住者向け借主負担型改修制度の在り方の研究 (2015.8).
*4	L-12	VOL.181:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る-ハマービー・ショースタッド、ヴォーバン団地の団地再編空間手法- (2015.8).
*4	L-13	VOL.180:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る-レーマーシュタット、ノイマルクトの団地再編空間手法- (2015.8).
*4	L-14	VOL.179:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る-ラビ団地の団地空間再編手法- (2015.8).
	L-15	VOL.178:道と暮らしが呼応する豊かな街路空間の創出と、街とつながる団地計画～大阪府衛千里桃山台住宅(1丁目)を舞台として～ (2015.8).
*12	L-16	VOL.177:ダンチ de コソダテ in 男山団地 地域子育て支援施設「おひさまテラス」の開設 (2015.8).
*12	L-17	VOL.176:ダンチ de コソダテ in 男山団地 子育て世代向け「子育ての住まいリノベーション」の実施 (2015.8).
	L-18	VOL.175:コレクティブハウジングの狙いと実践 (2015.8).
	L-19	VOL.174:団地と地域の再生 (2015.8).
*11	L-20	VOL.173:だんだんテラス活動報告② だんだんテラスの目指すもの (2015.8).
	L-21	VOL.172:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る コーポラティブハウス『Uコート』の建築空間 (2015.8).
	L-22	VOL.171:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る 道を導入した入れ子型空間になったコーポラティブ住宅 一萱島ネイキッドスクエアと西神アーサヒルズー (2015.8).
	L-23	VOL.170:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る 個々に根ざす小さくて低く古くて新鮮なこれからの共同住宅のありよう (2015.8).
	L-24	VOL.169:再編まちづくりと曼荼羅の構造 (2015.8).
	L-25	VOL.168:多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る ラルフ・アースキンの集住建築から (2015.8).
	L-26	VOL.167:40 m <sup>2</sup> の専用庭のある団地へ UR 都市再生機構南花台団地の再編提案 (2015.8).
*10	L-27	VOL.166:『男山地域まちづくり連携協定』年次報告会の開催 (2015.8).
*11	L-28	VOL.165:だんだんテラス活動報告① (2015.3).
*13	L-29	VOL.164:男山地域再生基本計画 住民向けリーフレットの作成 (2015.3).
*13	L-30	VOL.163:男山地域再生基本計画の策定 (2015.3).
	L-31	VOL.162:まち再生を担う自律的 PPP 組織(CID 組織) の提案 (2015.3).
*15	L-32	VOL.161:近代の集合住宅団地は何を目指したかー団地再編プロジェクト・パネルディスカッションの記録ー (2015.3).
	L-33	VOL.160:公共住宅セミナーの開催『団地再編』持続的な集住環境へー新たな生活像と風景ー 団地再編 COMPETITION2013 を通して、住宅ストックのあり方を考える (2015.3).
	L-34	VOL.159:団地再編シンポジウムの開催 『団地再編』持続的な集住環境へー新たな生活像と風景ー 団地再編 COMPETITION2013 を通して、住宅ストックのあり方を考える (2015.3).
	L-35	VOL.158:団地再編 COMPETITION2013 パネルディスカッションによる二次公開審査 (2015.3)
	L-36	VOL.157:団地再編 COMPETITION2013 の開催 (2015.3).
	L-37	VOL.156:多摩ニュータウンでの高齢者支援スペース 『福祉亭』の取り組み (2014.9).
	L-38	VOL.155:集合住宅団地建替えの事例と事業の成立要因について ～関西圏での分譲団地再生事例を基に～(2015.3).
	L-39	VOL.154:子育て支援が拓く新しい世界ー団地に於ける子育て支援・あつぷるはうすの取り組み (2014.6).
	L-40	VOL.153:地域資源とつながりの再デザイン ーU-CoRo プロジェクト(Step1) の実践からー」 (2014.3).
	L-41	VOL.152:UR 団地の最新の取り組みについて (2014.3).
*10	L-42	VOL.151:『男山地域まちづくり連携協定』締結式 (2014.3).



	L-43	VOL.150:MUJI×URによる団地再生 (2014.3).
	L-44	VOL.149:身の丈のまちづくりを目指して (2014.3).
	L-45	VOL.148:低成長時代の建築関係の新しい職能・マネジメント(2014.3).
	L-46	VOL.147:住民参画型活動のマネジメント 一兵庫県立有馬富士公園一 (2014.3).
	L-47	VOL.146:団地の再編を考える-MUJI × UR 団地リノベーションプロジェクト トークセッション (2014.3).
	L-48	VOL.145:四国八十九カ所へんろ小屋プロジェクト 住民有志のボランティアによるへんろ小屋づくりを通じた四国遍路文化の継承と人々のふれ合い (2014.3).
	L-49	VOL.144:河内長野市の歴史と魅力 (2013.12).
	L-50	VOL.143:京都・祇園町南側の町づくり-終(の住処)の町の仕組み- (2014.3).
	L-51	VOL.142:泉北ほっとけないネットワークー地域の「空き」を共有し、コミュニティサービスを展開するー (2014.3).
	L-52	VOL.141:機能主義都市からの脱却に向けて-時間・空間コンテクスチャリズム- (2014.3).
	L-53	VOL.140:サーカスがつむぐ小さな日常-医療と居住を結ぶ生活基盤の再編- (2014.3).
	L-54	VOL.139:武庫川団地における団地マネジメント (2014.2).
	L-55	VOL.138:団地型分譲集合住宅の再編手法の提案 (2013.8)
	L-56	VOL.137:市民によるまちづくりの支援方法 (2013.8).
	L-57	VOL.136:まちづくり+クリエイティブ～市民参加の方法論 風の人からの提言～ (2013.8).
	L-58	VOL.135:大規模団地の総合的な再生に向けた検討 -横浜市の場合- (2013.8).
	L-59	VOL.134:「新しい公」による団地の住環境マネジメントの展望 (2013.8).
	L-60	VOL.133:UR 団地での子育て支援活動の取組み-団地再生の具体的方策に関する報告書から(2007)- (2013.8).
	L-61	VOL.132:まちづくりの時代の公共空間・コモンスペースのデザイン (2013.8).
	L-62	VOL.131:団地再生の活路 屋外環境改修と住棟の断熱エコ改修の取組み (2013.8).
	L-63	VOL.130:メルカテッロの家再生の記録ー再生デザインを通して考えるストックの活用ー (2013.8).
	L-64	VOL.129:建物再生における照明の役割と可能性 (2013.8)
	L-65	VOL.128:団地再生に向けて～団地グリッド構想の構築～ー神奈川県住宅供給公社の団地再生への取組みー (2013.8).
	L-66	VOL.127:男山団地中央センター地区の再生と“だんだんテラス”の提案 (2013.8).
	L-67	VOL.126:地方分権時代における住民協働のまちづくり (2013.8).
*7	L-68	VOL.125:“だんだんギャラリー”の開催, (2013.8).
	L-69	VOL.124:住宅から見た高齢者の暮らしとこれからの千里ニュータウン (2013.8).
*16	L-70	VOL.123:団地再編ガイドライン トライアルその 2(2013) (2013.8)
*16	L-71	VOL.122:UR男山団地再編(再生・更新)にあたっての提言ー再編提案とその検証からー (2013.8).
*16	L-72	VOL.121:団地再編ガイドライン トライアルその 1(2012) (2013.5).
	L-73	VOL.120:公共住宅を中心とした地域風景の創出と住民管理の“だんだん”畑ー南芦屋浜震災復興公営住宅団地ー (2013.7).
	L-74	VOL.119:ストック活用時代の大規模団地再編への展望(その 2) ストックを活かしながら団地の構造(仕組み)を再編し、多様で自立的(持続的)な“まち”へ再生する修復型団地再編の提案～UR都市再生機構浜甲子園団地(第IV期エリア)を舞台として～ (2013.6).
*7	L-75	VOL.118:“だんだんワークショップ”の開催 (2013.8).
*7	L-76	VOL.117:“だんだんカフェ”の開催 (2013.8).
*5	L-77	VOL.116:団地／それぞれの住まい歴調査研究 (2013.8).
	L-78	VOL.115:男山団地 C2-305 における住戸改修実験 (2013.5).
	L-79	VOL.114:集住と住民参加の意味 (2013.3).
	L-80	VOL.113:多摩平団地建替え事業から-住民・日野市・UR 三者勉強会による建替え事業- (2013.3).
	L-81	VOL.112:住民の立場からみた千里ニュータウンの建替え事業 (2013.3).

- L-82 VOL.111:大阪府営住宅団地の現状と課題 (2013.5).
- \*7 L-83 VOL.110「団地再編住みよいまちへ 2012」展覧会・展覧会の開催 (2013.3).
- \*5 L-84 VOL.109:男山地域の再生・再編に関する住民意識調査報告 (2013.5).
- \*5, \*8 L-85 VOL.108:男山団地における自家用車所有・カーシェアリング利用意向調査 (2013.5).
- \*5 L-86 VOL.107:男山団地における居住実験 (2013.3).
- \*5 L-87 VOL.106:男山団地における空き住戸の実態調査 (2013.3).
- \*5 L-88 VOL.105:男山団地における植栽の実態調査 (2013.3).
- \*4 L-89 VOL.104:街区を構成するウィーン公共集合住宅(団地)の持続性(2013.1).
- L-90 VOL.103:微気候と団地の景観 男山団地の緑道植栽及び路上駐車場の微気候の再生に関する方向性について(2013.3).
- L-91 VOL.102:団地住戸のリノベーションを経験して (2013.3).
- L-92 VOL.101:UR団地の再生と居住者参加 (2013.3).
- L-93 VOL.100:団地再編のプロセスデザイン-和歌山県御坊市宮・島団地の建て替え事業を事例として- (2013.3).
- \*4 L-94 VOL.099:老朽化したUR 団地の建て替え3事例ー多摩平の森・武蔵野緑町パークタウン・シャレール菝窪ー (2013.1).
- L-95 VOL.098:住棟単位の多様な活用方法を模索する UR 都市機構の「住棟ルネッサンス計画 2」 (2013.1).
- \*6 L-96 VOL.097:ストック活用時代の大規模団地再編への展望～その 2:更新可能な小さな単位への再編手法 3 地区での再生イメージ～ (2013.3).
- \*6 L-97 VOL.096:ストック活用時代の大規模団地再編への展望～その 1:建築基準法 86 条 一団地の解体～(2013.1).
- L-98 VOL.095:堀川団地‘やわらかい’まちづくり再生ビジョン (2013.1).
- L-99 VOL.094:日本における集合住宅団地の再編方法を探る (2013.3).
- L-100 VOL.093:リファイニング建築と団地 (2013.3).
- L-101 VOL.092:建て替えしない団地再生ー市民コミュニティ・ビジネスによる挑戦 (2013.3).
- L-102 VOL.091:経済条件から見た分譲集合住宅(団地)の再編方向について (2013.1).
- L-103 VOL.090:集合住宅と戸建て住宅が混在共棲するふつうの街への再生 ー人間サイズのまちの再生 若宮地区震災復興住環境整備ー (2012.9).
- \*4 L-104 VOL.089:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(ベトナム・ジャンボ団地 1/2000) (2012.9).
- \*4 L-105 VOL.088:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(中国・百万庄団地 1/2000) (2012.9).
- \*4 L-106 VOL.087:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(オランダ・ベルマミア団地 1/1000) (2012.9).
- \*4 L-107 VOL.086:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(オランダ・ベルマミア団地 1/2000) (2012.9).
- \*4 L-108 VOL.085:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(ドイツ・ライネフェルデ南団地 1/2000) (2012.9).
- \*4 L-109 VOL.084:再生事例に見る従前従後の空間比較模型(イギリス・ヒューム地区 1/2000) (2012.9)
- L-110 VOL.083:「八幡・樟葉地区開発基本計画」の概要と男山地区周辺を語る (2012.9).
- L-111 VOL.082:阪神・淡路大震災に係る災害復興住宅の景観形成指針(その 1) (2012.9).
- L-112 VOL.081:団地は自然な都市に変わりうるか (2012.9).
- L-113 VOL.080:団地を「ふるさと」にする方法を考えるー「生活空間の履歴」の解釈への参加と協働をめぐる (2012.9).
- L-114 VOL.079:団地マネジメントの時代へーUR 団地再生のこれからー (2012.9).
- L-115 VOL.078:サステナブル社会づくりの核となる団地再生ー“エコ団地をつくるオープンビルディング”の現状 (2012.9)
- L-116 VOL.077:シナリオ・アプローチによる団地再編 (2012.9).
- L-117 VOL.076:重層的な生活困難を抱えた単身困窮者の住居 (2012.9).
- L-118 VOL.075:ニュータウンの計画文化とその解体 千里ニュータウンは文化的景観か (2012.9).

- L-119 VOL.074:団地再生計画―団地からまちへ―仙台市の事例より― (2012.9).
- L-120 VOL.073:千里ニュータウン藤白台府公社「再生地」における自治会、公社、民間事業者の3者による団地再編 (2012.9).
- L-121 VOL.072:周辺環境を高める建築―独立住宅の設計から― (2012.9).
- L-122 VOL.071:規格化と個別化の融合 R.M.シンドラーの集合住宅 (2012.9).
- L-123 VOL.070:郊外ニュータウンのオールタウン化とその再生 (2012.9).
- L-124 VOL.069:団地再生とはまちづくりである?神戸の近代都市計画を事例として (2012.9).
- L-125 VOL.068:UR 賃貸住宅を公的に再生・活用する (2012.9)
- L-126 VOL.067:明舞団地と住民活動の実際―団地再生に向けた取り組み― (2012.9).
- L-127 VOL.066:公共賃貸住宅地の団地再生ガバナンス (2012.9).
- L-128 VOL.065:千里ニュータウンにおける「再生地処分方式による建替え」の批判的分析 (2012.9).
- L-129 VOL.064:サステイナブルなコミュニティをめざして (2012.9).
- L-130 VOL.063:研究担当者の団地再編イメージ (2012.3).
- \*4 L-131 VOL.062:再生現場を空間計画の立場から確認して(Montbeliard-Bethoncourt) (2012.3).
- \*4 L-132 VOL.061:再生現場を空間計画の立場から確認して(Poptahof, Delft) (2012.3).
- \*4 L-133 VOL.060:再生現場を空間計画の立場から確認して(La Duchere, Lyon) (2012.3).
- \*4 L-134 VOL.059:ハノイでカワイイをさがす 団地の竹下通り (2012.3).
- \*4 L-135 VOL.058:ハノイの集合住宅のDIYファサード (2012.3).
- \*4 L-136 VOL.057:北京における創成期集合住宅 団地の建設時の環境 (2012.3).
- \*4 L-137 VOL.056:再生現場を空間計画の立場から確認して(ベルマミア地区) (2012.3).
- \*4 L-138 VOL.055:再生現場を空間計画の立場から確認して(ヒューム地区) (2012.3).
- \*4 L-139 VOL.054:コインストリート団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-140 VOL.053:エンジェルタウン団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-141 VOL.052:リファールブル団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-142 VOL.051:ホリーストリート団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-143 VOL.050:ウッドベリーダウン団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-144 VOL.049:チャークヒル団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-145 VOL.048:ストーンブリッジ団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-146 VOL.047:モンティース団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-147 VOL.046:トロブリッジ団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-148 VOL.045:ノースペカム団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-149 VOL.044:トレデガー団地の再生(手法と現況)(2012.3).
- \*4 L-150 VOL.043:マーキスロード団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-151 VOL.042:デヴィオット団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-152 VOL.041:ランウェルロード団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-153 VOL.040:リービューハウス団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-154 VOL.039:モーツァルト団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-155 VOL.038:レオポルド団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-156 VOL.037:ラフポロウ団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-157 VOL.036:アイレスベリー団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-158 VOL.035:ブランドン団地の再生(手法と現況) (2012.3).
- \*4 L-159 VOL.034:ロンドンの団地再生現場を調査して (2012.3).
- \*4 L-160 VOL.033:戦前団地を中心にドイツ・オランダを巡って(オランダ編) (2012.3).
- \*4 L-161 VOL.032:戦前団地を中心にドイツ・オランダを巡って(ドイツ編) (2012.3).
- L-162 VOL.031:ヨーロッパの団地再生事例から (2012.3).

- \*4 L-163 VOL.030:海外団地再生・空間比較の実測調査-蘭アムステルダム・ベルマミーア-(2012.3).
- \*4 L-164 VOL.029:海外団地再生・空間比較の実測調査-独ライネフェルデ・南団地-(2012.3).
- \*4 L-165 VOL.028:海外団地再生・空間比較の実測調査-英国マンチェスター・ヒューム-(2012.3).
- L-166 VOL.027:フランスの近年の団地更新事例について (2012.3).
- \*4 L-167 VOL.026:ハノイ集合住宅・団地の現状-GIANG VO の調査 (2012.3).
- \*4 L-168 VOL.025:北京百万庄住宅団地の理解 (2012.3).
- \*4 L-169 VOL.024:living heritageとしての団地 北欧の団地再生 (2012.3).
- \*4 L-170 VOL.023:さまざまな手法を織り混ぜた埠頭から住宅地への転用 -オランダ・アムステルダム東部港湾地区-(2012.3).
- L-171 VOL.022:オランダの空間計画論その5 オランダの社会住宅と家賃補助制度 (2012.3).
- L-172 VOL.021:オランダの空間計画論その4 プランニング・ドクトリンによる都市形成(2012.3).
- L-173 VOL.020:オランダの空間計画論その3 西部都市圏ラントシュタットの成長管理(2012.3).
- L-174 VOL.019:オランダの空間計画論その2 戦略的プランニングによる土地利用計画 (2012.3).
- L-175 VOL.018:オランダの空間計画論その1 干拓と治水をルーツとするプランニング文化 (2012.3).
- L-176 VOL.017:ヨーロッパ共同体の都市づくり憲章-新アテネ憲章-(2012.3).
- L-177 VOL.016:ワークショップ・ハウジング 御坊島団地の再生(1-5期)(2012.3).
- L-178 VOL.015:住み手主体のコーポラティブ住宅・実践の今 (2012.3).
- L-179 VOL.014:サステイナブルな団地再生 (2012.3).
- L-180 VOL.013:大阪集合住宅団地 黎明期 (2012.3).
- L-181 VOL.012:同潤会による複合開発と震災復興住宅 (2012.3).
- L-182 VOL.011:自然と生活と建築と都市 (2012.3).
- L-183 VOL.010:既存ストックを活用した団地再生の実践と提案 (2012.3).
- L-184 VOL.009:浜甲子園団地の再生 さくら街(建替1期)と全体計画 (2012.3).
- \*4 L-185 VOL.008:アジアの集合住宅・団地の理解 (2012.3).
- L-186 VOL.007:イギリス社会住宅の団地再生 (2012.3).
- \*4 L-187 VOL.006:ベルリンの世界遺産,近代集合住宅群を読む (2012.3).
- L-188 VOL.005:国内団地再編に関わる空間提案の候補団地の選定 (2012.3).
- L-189 VOL.004:団地再編前後の空間比較模型の制作 (2012.3).
- \*4 L-190 VOL.003:オランダ・アムステルダム ベルマミーア団地の再生 (2012.3).
- \*4 L-191 VOL.002:ドイツ・ライネフェルデ南団地の再生(2012.3).
- \*4 L-192 VOL.001:イギリス・マンチェスター ヒューム地区の団地再生 (2012.3).

**<M. 団地再編 レクチュア・シリーズ (HP上にストックUP, 常時視聴可能) >\*1**

- M-1 半田啓祐, 中村路子, おきなまさひと, 久留米移住計画について (2016.1.31).
- M-2 片岡由香, 松山アーバンデザインセンターの取り組み (2015.10.30).
- M-3 太田隆司, 空き家を生かす、空き地を使う (2015.10.10).
- M-4 江川直樹, 南仏小集落の暮らしの風景 (2015.9.26).
- M-5 角野幸博, 郊外住宅地の歴史とこれから (2015.9.12).
- M-6 西尾高雄, 地域木材を使用したカヌー作り(その2) (2015.8.22).
- M-7 安原秀, OLA Field(Own Life Aging Field)の狙いと空間づくり (2015.6.17).
- M-8 第1回 塗ってみよう会「サビ鉄手すりのペンキ塗装レクチャー」(2015.5.31).
- M-9 鳴海邦碩, 江川直樹, 佐藤勝紀, 色彩による団地再編への展望 (2015.5.28).
- M-10 江川直樹, 「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチュアシリーズ(その6) (2015.5.11).

- M-11 江川直樹,「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチュアシリーズ(その5)(2015.4.27).
- M-12 西尾高雄,地域木材を使用したカヌー作り(その1)(2015.04.11).
- M-13 狩野三枝,コクティブハウジングの狙いと実践(2015.1.26).
- M-14 江川直樹,鳴海邦碩,辻村修太郎,堀口文昭,①プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望,②近代の集合住宅団地は何を目指したか?~団地のはじまりを振り返り明日を考える~,③だんだんテラスの目指すもの,④団地と地域の再生-大学との連携を振り返って-(2015.1.23).
- M-15 江川直樹,重村力,三好庸隆,塚本文,辻村修太郎,谷ノ上浩久,金森佳津,猪野正浩,地域再生センター研究発表会「団地再編 COMPETITION2013 と『南花台スマートエイジング・シティ』団地再生モデル事業」(2015.1.10).
- M-16 乾亨,「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチュアシリーズ(その4)コーポラティブハウス『Uコート』の建築空間(2014.12.22).
- M-17 安原秀,「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチャーシリーズ(その3)『道を導入した入れ子型空間になったコーポラティブ住宅-萱島ネイキッドスクエアと西神アーサヒルズ-』(2014.12.8).
- M-18 伴年晶,「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチャーシリーズ(その2)個々に根ざす小さくて低くて古くて新鮮なこれからの共同住宅のありよう(2014.12.1).
- M-19 久保光弘,再編まちづくりと曼荼羅の構造(2014.11.17).
- M-20 江川直樹,「多様な集住環境としての団地再編の空間イメージを探る」レクチャーシリーズ(その1)ラルフ・アースキンの集住建築から(2014.11.10).
- M-21 三崎信顕,まち再生を担う自律的PPP組織(CID組織)の提案について(2014.9.3).
- M-22 団地再編プロジェクト,団地再編シンポジウム『団地再編』持続的な集住環境へ-新たな生活像と風景-,(2014.07.16).
- M-23 団地再編プロジェクト,団地再編パネルディスカッション『近代の集合住宅団地は何を目指したか?』,(2014.7.12).
- M-24 団地再編COMPETITION2013二次公開審査会,団地再編「COMPETITION2013」二次公開審査会(2014.5.25).
- M-25 上野淳,多摩ニュータウンでの高齢者支援スペース「福祉亭」の取り組み(2014.5.21).
- M-26 根津昌彦,集合住宅団地建替えの事例と事業の成否要因についての報告会(2014.4.9).
- M-27 高橋叡子,子育て支援が開く新しい世界(2014.3.9).
- M-28 江川直樹,辻村修太郎,宮崎篤徳,弘本由香里,①プロジェクトのこれまでの成果と今後の展望,②365日オープンなコミュニティ活動拠点「だんだんテラス」開設の狙い,③男山地域再生基本計画(案)の作成に携わって,④地域資源とつながりの再デザイン~U-CoRoプロジェクト(Step1)の実践から~(2014.1.23).
- M-29 土谷貞雄,MUJI×URによる団地再生について(2013.12.20).
- M-30 石本幸良,身の丈のまちづくりを目指して(2013.12.11).
- M-31 若本和仁,低成長時代の建築関係の新しい職能・マネジメント(2013.12.5).
- M-32 藤本真里,市民参画型活動のマネジメント(2013.11.27).
- M-33 江川直樹,土谷貞雄,団地の再編を考える-MUJI×UR 団地リノベーションプロジェクトトークセッション vol.1-(2013.11.22)
- M-34 歌一洋,四国89ヶ所へんろ小屋プロジェクトへの思いと実践(2013.11.18).
- M-35 小池悟史,太田宏明,河内長野市の歴史と魅力(2013.10.30).
- M-36 吉田秀雄,京都・祇園町南側の町づくり-終(の住処)の町の仕組み-(2013.10.7).
- M-37 森一彦,「泉北ほっとけないネットワーク」プロジェクト~地域の「空き」を共有し、コミュニティサービスを展開する(2013.9.30).
- M-38 山崎正史,機能主義都市からの脱却に向けて(2013.9.27).
- M-39 長谷川駿,第10回団地再生卒業設計賞内田賞「サーカスがつむぐ小さな日常-医療と居住を結ぶ生活基盤の再編-」(2013.9.24).
- M-40 江川直樹,第3回「団地の再編を考える」-大規模公的賃貸 集合住宅団地の再編(再生・更新)- (特別レクチャー ハイライフ研究所)(2013.9.12).
- M-41 堀内幸次郎,水野優子,武庫川団地における団地マネジメント(2013.8.28).
- M-42 泉英明,市民によるまちづくりの支援方法(2013.7.29).
- M-43 永田宏和,まちづくり+クリエイティブ~市民参加の方法論。風の人からの提言~(2013.7.17).

- M-44 高鍋剛, 大規模団地の総合的な再生に向けた検討—横浜市の場合— (2013.7.9).
- M-45 山本茂, 新しい公による団地の住環境マネジメントの展望 (2013.6.25).
- M-46 大島祥子, UR 団地での子育て支援活動の取り組み—団地再生の具体的方策に関する報告書から 2007— (2013.6.24).
- M-47 片岡由香, UR 団地における子育て支援の取り組みについて (2013.6.24). (非公開)
- M-48 中井祐, まちづくりの時代の公共空間・コモンスペースのデザイン (2013.6.19).
- M-49 奥茂謙仁, 花牟禮幸隆, 団地再生の活路 2 つの取り組み事例の紹介 (2013.6.10).
- M-50 井口勝文, イタリア・メルカテッロでの町家の再生と活用—ストックのデザインを考える— (2013.6.4).
- M-51 長町志穂, 建物再生における照明の役割と可能性 (2013.5.20).
- M-52 猪股篤雄, 団地グリッド構想の構築～神奈川県住宅供給公社による団地再生～ (2013.5.17).
- M-53 西周健一郎, UR 団地の最新の取り組みについて (2013.4.1).
- M-54 江川直樹, 岡絵理子, 重村力, ①本プロジェクトのこれまでの成果報告、及びストック活用時代の大規模団地再編への展望(2012 提案), ②男山地域居住者への「まちとくらしのアンケート調査」から, ③集住と住民参加の意味 (2013.1.30).
- M-55 岡絵理子, 保持尚志, 男山地域での 3 調査の報告会(中間報告) (2013.1.22).
- M-56 角橋徹也, 三谷幸司, 安原秀, UR 多摩平の森他の調査報告会 (2013.1.17).
- M-57 星田逸郎, 井上洋司, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①団地住戸のリノベーションを経験して(親月橋団地再生計画、向ヶ丘第一団地ストック再生実証試験、富田第二住宅等), ②男山団地の緑道植栽及び路上駐車場景観の微気候調整能力再生に向けて,(2012.12.16).
- M-58 江川直樹, 増永理彦, 笹原武志, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再生への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案), ②「多摩平の森」における三者の協働について (2012.12.15).
- M-59 鳴海邦碩, 住宅から見た高齢者の暮らしとこれからの千里ニュータウン (2012.12.12).
- M-60 中嶋俊行, 大阪府営住宅団地の現状と課題 (2012.12.11). (非公開)
- M-61 江川直樹, 増永理彦, 山口岩次郎, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再生への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案), ②UR 団地の再生と居住者参加 (2012.12.8).
- M-62 寺川政司, 団地再生とコミュニティのまちづくり, (2012.12.6). (非公開)
- M-63 高田光雄, 堀川団地”やわらかい”まちづくり再生ビジョン (2012.11.29). (非公開)
- M-64 糟谷佐紀, 住民ワークショップ—御坊島団地を事例として (2012.11.28).
- M-65 江川直樹, 増永理彦, 団地再編 住みよいまちへ 2012 講演会 ①海外等の団地再生先進事例の動向と、わが国におけるストック活用型団地再生への展望(関西大学戦略基盤団地再編プロジェクトからの提案), ②団地再生における居住者参加 (2012.11.17).
- M-66 木村工務店, 山本塗装, 男山団地 C2-305 住戸の改装実験 (2012.11.16).
- M-67 荒木公樹, 男山団地の住戸内改装実験についての公団仕様に関するレクチュア (2012.11.12). (非公開)
- M-68 江川直樹, 千里ニュータウン半世紀展 講演「団地再生の夢」(2012.10.13).
- M-69 江川直樹, 大月敏雄, 藤本昌也, 林泰義, 木多道宏, 齊藤広子, 森永良丙, 鳴海邦碩, 集合住宅“団地”の再編に関する技術開発研究プロジェクト 東京フォーラム ①日本における集合住宅団地の再編方法を探る, ②集合住宅“団地”の再編に関する技術開発研究プロジェクトのねらい, ③集合住宅団地をいかに次世代に継承するか, ④地方都市中心市街地再生と郊外公営住宅団地再編との連携事業の実践を通して考える, ⑤日本における公的住宅のマネジメント主体の展望, ⑥ディスカッション (2012.10.6).
- M-70 青木茂, リファイニング建築と団地 (2012.10.4).
- M-71 服部岑生, 建て替えしない団地再生—市民コミュニティ・ビジネスによる挑戦 (2012.9.27).
- M-72 根津昌彦, 団地再編マネジメント研究経済条件から見た分譲集合住宅(団地)の再編方向について (2012.9.26). [非公開]
- M-73 馬場明男, 八幡・楠葉地区開発基本計画」の概要 男山地区周辺を語る (2012.8.1).
- M-74 田端修, 団地は自然な都市に変わりうるか (2012.7.24).
- M-75 延藤安弘, 団地を「ふるさと」にする方法を考える—「生活空間の履歴」の解読への参加と協

- 働をめぐって (2012.7.20).
- M-76 江川直樹, 巽和夫, 星田逸郎, 安原秀, 岡絵理子, 倉知徹, 関西大学 先端科学技術推進機構 地域再生センター研究発表会 ①団地再編への挑戦\_団地の「まち」づくり, ②本技術開発研究の狙いと初年度の研究内容および二年目の研究方針「団地マネジメントの時代へ -UR 団地再生のこれから, ③クロストーク (2012.7.14).
- M-77 澤田誠二, サステナブル社会づくりの 核となる団地再生 -エコ団地をつくるオープンビルディングの現状 (2012.7.4).
- M-78 高田光雄, シナリオ・アプローチによる団地再編 (2012.6.26). [非公開]
- M-79 糟谷佐紀, 室崎千重, 低所得者の安定居住支援について～ふるさとの会の事業紹介～, (2012.6.21).
- M-80 小浦久子, ニュータウン:タウンの計画文化と解体 (2012.6.14).
- M-81 吉浦啓史, 吉田祐介, 増田和起, 倉知徹, イギリス・ロンドンの団地再生事例の調査報告」,(2012.6.13).
- M-82 川原晋, 団地再生計画～団地からまちへ～仙台市の事例より (2012.6.12).
- M-83 角橋徹也, 自治会・公社・自治体・民間デベロッパーのコラボレーションによる団地再編の事例報告ー千里ニュータウン藤白台での建替え事業ー (2012.6.7).
- M-84 竹原義二, 地域環境を向上させる住宅のデザインー竹原義二先生を迎えて (2012.6.4).
- M-85 末包伸吾, ルドルフ・シンドラーによる集合住宅における規格化と個別性の融合 (2012.5.29).
- M-86 中元三郎, BIM 入門 (2012.5.28). (非公開)
- M-87 吉浦啓史, 吉田祐介, 増田和起, 倉知徹, イギリス・ロンドンの団地再生事例の調査報告,(2012.5.16).
- M-88 坂口文彦, 中尾礼太, 鳴海邦碩, 岡絵理子, 北京・百万庄団地, ハノイ・Giang Vo 団地の調査報告 (2012.5.15).
- M-89 三好庸隆, 郊外ニュータウンのオールドタウン化とその再生 (2012.5.11).
- M-90 小林郁雄, 団地再生とはまちづくりである (2012.5.10).
- M-91 江川直樹, フランス・イギリス・オランダ調査報告会 (2012.5.8).
- M-92 大坪明, ドイツ・オランダ 調査報告会 (2012.4.27).
- M-93 橋寺知子, 北欧の集合住宅団地 調査報告会 (2012.4.26).
- M-94 山中優, 大野祥和, イギリス・オランダ団地模型制作報告会 (2012.4.24).
- M-95 菊田純一, 男山団地調査報告会 (2012.4.18).
- M-96 江川直樹, 安原秀, 海外における団地再生事例 (2012.3.22).
- M-97 増永理彦, UR 賃貸住宅を公的に再生・活用する(その 2) (2012.3.7).
- M-98 団地再編に関する意見交換会 (2012.02.09).(非公開)
- M-99 増永理彦, UR 賃貸住宅を公的に再生・活用する(その 1) (2012.2.23).
- M-100 小玉祐一郎, サステナブルな団地再生 (2012.2.23).
- M-101 大月敏雄, 同潤会による複合開発と震災復興 (2012.2.20).
- M-102 岡絵理子, 大阪の集合住宅 黎明期 (2012.2.20).
- M-103 江川直樹, 浜甲子園団地のリニューアルについて (2012.2.12).
- M-104 糟谷佐紀, 室崎千重, 平山洋介, 明舞団地における市民活動等について (2012.1.30).
- M-105 鳴海邦碩, アジア団地 モンゴル・中国・ベトナム (2012.1.30).
- M-106 角橋徹也, 荒木公樹, ベルマミーアにおける住宅地再生事例 (2012.1.26).
- M-107 鳴海邦碩, アジアの団地ー韓国・香港・シンガポール・インドネシア (2012.1.26).
- M-108 深尾精一, 団地型集合住宅ストックをどのように活用・更新するか(総論) (2012.1.23).
- M-109 深尾精一, 団地型集合住宅ストックをどのように活用・更新するか(各論) (2012.1.22). (非公開)
- M-110 佐藤健正, イギリスの社会住宅の団地再生 (2012.1.20).
- M-111 倉知徹, 増田和起, ヒューム、ライネフェルデにおける住宅地再生事例 (2012.1.18).
- M-112 星田逸郎, 向ヶ丘団地他における住棟改修等 (2012.1.18).
- M-113 阿部順子, フランスの近年の団地更新について (2011.12.22).

- M-114 橋寺知子, ヘルシンキ市モダニズム建築保存について (2011.12.22).
- M-115 倉知徹, 海外調査報告会 (2011.12.22).
- M-116 角橋徹也, 公共賃貸住宅地の団地再生ガバナンス (2011.11.17).
- M-117 山本聡, ヒューム再生におけるサステナブルな街づくり (2011.11.17).
- M-118 遠藤剛生, 住宅地計画における基本的考え方、ほか (2011.11.16).
- M-119 角橋徹也, 再生地売却方式の問題点を探る (2011.11.11).
- M-120 大坪明, 欧州の団地再生から考えるストック活用 (2011.11.9).
- M-121 松永安光, サステナブルなコミュニティをめざして (2011.11.8).
- M-122 安原秀, 伴年晶, コーポラティブ住宅について (2011.11.8).
- M-123 鳴海邦碩, 街の構成のモデルとは都市の生成と再生の過程 (2011.11.2).
- M-124 大坪明, ライネフェルデの都市再生 (2011.10.28).
- M-125 角橋徹也, ベルマミア住宅団地の失敗と再生 (2011.10.27).
- M-126 鳴海邦碩, 市街地と街区 和やかなまち (2011.10.27).
- M-127 角橋徹也, オランダの住宅政策-社会住宅と家賃補助制度- (2011.10.20).
- M-128 角橋徹也, 20世紀アムステルダムの成長管理 (2011.10.13).
- M-129 江川直樹, オランダ ベルマミア団地視察結果報告 (2011.10.5).
- M-130 角橋徹也, オランダ 多心型環状都市の形成 (2011.10.5).
- M-131 鳴海邦碩, イギリス、ヒューム地区の変遷 (2011.10.5).
- M-132 鳴海邦碩, 新アテネ憲章について (2011.10.4).
- M-133 角橋徹也, オランダにおける開発関連システム (2011.9.29).
- M-134 鳴海邦碩, モダニズム団地の成立、展開、課題 (2011.9.27).
- M-135 角橋徹也, 干拓をルーツとするプランニング文化 (2011.9.22).

#### <N. 団地再編専門家養成セミナー>\*14

- N-1 団地原論①: 集合住宅団地の誕生と世界への普及 (鳴海邦碩) ~ 郊外の発生、田園都市、住宅計画のモダニズム、ニュータウンと団地 (2014.5.17).
- N-2 団地原論②: 社会制度と集合住宅団地 (鳴海邦碩) ~ 自由主義経済と社会主義経済、ニューヨークの集合住宅団地 (2014.5.17).
- N-3 団地原論③: 3公住宅の成立と集合住宅団地の開発 (岡絵理子) ~ 前期の営団、戦後の公営、公団、公社住宅、位置づけの日本の特徴(ヨーロッパ等の社会住宅との違い) (2014.5.31).
- N-4 団地原論④: 集合住宅団地の日本での展開 (岡絵理子+鳴海邦碩) ~ 市街地内および縁辺部での開発から郊外開発へ、ニュータウン、地域開発 (2014.5.31).
- N-5 団地原論⑤: 丁寧な空間づくりから規格化・工業化・量産化(三井所清典(アルセッド)) ~ 公的住宅団地における建築家の試み、規格化の展開、プレファブ集合住宅、大規模開発 (2014.6.14).
- N-6 団地原論⑥: 多様な団地管理の仕組み (川端宏幸(兵庫県住宅供給公社理事長)) ~ 公営、公団、公社の住宅管理、管理の外部化、家賃闘争、団地と政治集団 (2014.6.14).
- N-7 団地原論⑦: 住宅市場における3公住宅の位置づけ (森山秀二(BA)+鳴海邦碩) ~ 賃貸住宅市場の多様化、3公住宅の役割の変化、住宅のセーフティネット (2014.6.28).
- N-8 団地原論⑧: 社会潮流の変化と3公住宅団地の再編への取組みの実態(田邊豪二(UR西日本支社)+江川直樹) ~ 少子高齢化、人口減、ストックの状況、建て替え・改善の実態 (2014.6.28).
- N-9 団地原論⑨⑩: まとめのディスカッションと講師・受講者による意見交換、交流会 (2014.7.05).
- N-10 団地再編①: 公共住宅政策の国際比較から(平山洋介) ~ 低所得者層、階層ミックス、コミュニティ、職業教育、米・英・仏など (2014.10.11).
- N-11 団地再編②: ヨーロッパにおける団地再編の空間的手法(大坪明(武庫川女子大)+江川直樹) ~ 英、仏、独、減築、ミックス、緑地活用 (2014.10.11).
- N-12 団地再編③: ライフスタイルと暮らしのニーズの把握 (岡絵理子) ~ 高齢者、子育て層、新規来住者 (2014.10.18).
- N-13 団地再編④: 元気な暮らしの生み出し方 (岡絵理子) ~ 人と人のつながりデザイン、コミュニティ・デザイン (2014.10.18).
- N-14 団地再編⑤: 団地再編の考え方① 思いの編集と住環境(星田逸郎+伴年晶(VANS)) ~ 暮らしの活性化、絆を生み出す、コミュニティのまとめ、住宅外機能の導入 (2014.11.01).
- N-15 団地再編⑥: 団地再編の考え方② 団地環境の評価と活かし方(井上洋司(背景計画研究所)+星



- 田逸郎)～守り活かす要素の判定、微気候、空き家解消、住戸、住棟、空地改善、DIY 導入 (2014.11.01).
- N-16 団地再編⑦:団地環境再編のケーススタディ (江川直樹+田邊豪二 (UR西日本支社))～建て替え、ストック活用、制度の再編 (2014.11.15).
- N-17 団地再編⑧:団地環境再編のケーススタディとガイドライン (江川直樹)～目指すべき集住空間と再編のプロセス (2014.11.15).
- N-18 団地再編⑨⑩:まとめのディスカッションと講師・受講者による意見交換、交流会 (2014.11.22).

## ＜O. 報告書・パンフレット等＞

- \*12 O-1 関西大学地域再生センター団地再編プロジェクト,「ダンチ de コソダテ in 男山団地 2015」 (2016).
- \*13 O-2 八幡市,「男山地域再生基本計画」 (2014).
- \*13 O-3 八幡市,「男山地域再生基本計画 よーい どん!!」 (2014).
- \*12 O-4 関西大学地域再生センター団地再編プロジェクト,「ダンチ de コソダテ in 男山団地」 (2014).
- \*10 O-5 関西大学,八幡市,UR 都市機構,京都府,「男山地域まちづくり連携協定『第 1 回年次報告会』」 (2014).
- \*9 O-6 八幡市,「団地型分譲集合住宅再生への支援のあり方に関する検討報告書」 (2015).
- \*10 O-7 関西大学, 八幡市, UR 都市機構, 京都府,「男山地域まちづくり連携協定『第 2 回年次報告会』」 (2015).

## ＜P. 新聞記事・TV 報道、その他＞ (別紙 08 参照)

- \*11 P-1 だんだんテラスでの取り組みについて, テレビ大阪「ニュースリアル KANSAI」, 2015.6.17 放送.
- \*11 P-2 『『だんだん通信』好評、増部』, 京都新聞, 2015.5.29 付.
- \*11 P-3 だんだんテラスでの取り組みについて, NHK「おはよう関西」, 2015.2.26 放送.
- \*11 P-4 『『羨望』の団地、進む高齢化』, 読売新聞, 2015.2.12 付.
- \*11 P-5 だんだんテラスでの取り組みについて, TBS「朝チャン」, 2015.2.12 放送.
- \*11 P-6 まちの公共員・だんだんテラスでの取り組みについて, KBS 京都「京都ふらり」, 2015.1.8 放送.
- P-7 住み続けたい男山地域へ, けいはんタイムリー, 2015.1.1 付.
- \*11 P-8 WEB サイト「男山団地 『UR×関西大学×八幡市』」, UR 都市機構, 2014.11.1 掲載.  
[http://www.ur-net.go.jp/kansai/otokoyama\\_danchi/kandai/](http://www.ur-net.go.jp/kansai/otokoyama_danchi/kandai/)
- P-9 だんだんテラスで開催した流しそうめんイベントについて, K-CAT「ほっとニュース」, 2014.9.1 放送.
- \*11 P-10 「竹の工作教室 そうめん流し」, 京都新聞, 2014.8.30 付.
- P-11 「タイムズ 24 と関西大学、カーシェアリングによる団地再生の社会実験開始」, レスポンス(ニュースネットワーク), 2014.7.25 掲載 .  
<http://response.jp/article/2014/07/24/228445.html>
- P-12 「カーシェア利用促す実験 タイムズ 24・関大」, 日本経済新聞, 2014.7.25 付.
- \*11 P-13 「男山の未来を考えるだんだんテラス」, 八幡市民児協だより, 2014.7.1 付.
- P-14 「重村氏らの作品が最優秀賞」, 建設工業新聞, 2014.6.27 付.
- P-15 「地域再生 若者が後押し」, 京都新聞, 2014.6.16 付.
- P-16 「団地再編のアイデア競う 子育てや高齢者の支援案に最優秀賞」, 毎日新聞, 2014.5.28 付.
- P-17 「UR 南花台団地再編設計コンペ 神奈川大最優秀」, 建通新聞, 2014.5.28 付.
- P-18 「UR 南花台団地再編設計コンペ最優秀賞決定」, 日刊建産速報, 2014.5.27 付.
- P-19 「最優秀賞など 4 点決まる UR 南花台の団地再編コンペ」, 日刊建設産業新聞, 2014.5.27 付.
- P-20 『『ニュータウン』再編アイデアを公開審査』, 産経新聞, 2014.5.27 付.
- P-21 「男山団地住民に情報誌 朝市や教室紹介」, 京都新聞, 2014.5.18 付.
- P-22 「集合住宅団地 再生の方策」, 公明新聞, 2014.3.15 付.
- \*11 P-23 「だんだんテラスにようこそ」, まど, 2014.2.1 付.
- P-24 「日本初 UR 南花台団地を舞台に 団地再編提案設計コンペ 2013」, 日刊建産速報,

- 2013.12.24 付.
- P-25 「日本初 UR 南花台団地を舞台に 団地再編提案設計コンペ 2013」, 日刊建設産業新聞, 2013.12.24 付.
- \*11 P-26 「だんだんテラスオープン 地域住民の交流の場に」, けいはんタイムリー, 2013.12.1 付.
- P-27 「『団地再編住みよいまちへ 2012』展覧会・公園会の開催 関西大学・団地再編プロジェクトによる提案と公表」, 月刊ウエンディ, 2013,11.15 付.
- \*10 P-28 「男山団地再生を 八幡市関西大 UR が連携協定」, 京都新聞, 2013.10.26 付.
- \*10 P-29 「男山団地再生タッグ 八幡市関大 UR が協定」, 読売新聞, 2013.10.26 付.
- \*10 P-30 「男山に活力『住みたい・住み続けたい』地域へ」, 毎日新聞, 2013.10.26 付.
- \*10 P-31 「男山団地再生 関大の支援」, 産経新聞, 2013.10.26 付.
- \*10 P-32 「団地再生で関西大などと協定-京都府八幡市, 時事通信, 2013.10.25 付.
- \*10 P-33 「高齢化団地再生で連携」, 日本経済新聞, 2013.10.24 付.
- \*10 P-34 「UR・関大・八幡市協定書締結へ」, 建通新聞, 2013.10.24 付.
- P-35 「考えよう、男山地域の再生」, けいはんタイムリー, 2013.9.1 付.
- P-36 「男山再生へ意見飛び交う」, 京都新聞, 2013.8.5 付.
- P-37 「男山地域再生基本計画策定にむけて」, 広報八幡, 2013.8.1 付.
- P-38 「賃貸集合住宅団地における居住者による住戸改修実験-京都府男山団地 C2 号棟 305 号室の DIY 改修-」, 月刊ウエンディ, 2013.5.15 付.
- P-39 「団地再生研究で八幡市の男山団地に住む関西大大学院生」, 京都新聞, 2013.1.27 付.
- P-40 「男山団地イメチェン ぶち DIY 住民に提案へ」, 京都新聞, 2013.1.16 付.
- P-41 「ストックを活用し UR 団地再編を 関西大学が提案」, けいはんタイムリー, 2013.1.1 付.
- P-42 「団地再編プロジェクト住みよいまちづくりを目指して 2012」, ケーブルテレビ K-cat 「ほっとニュース」, 2012.12.18 放送.
- P-43 「団地再生の講演会」, 読売新聞, 2012.10.14 付.
- P-44 「団地再生 住んで研究」, 京都新聞, 2012.6.28 付.
- P-45 「lesje bouwen(レッスンを築く)」, De Telegraaf (2011.12.8).